

元気あふれる学校

開発的関わりが全ての教育活動を支える



開発的生徒指導

出番 役割 承認

education cycle

佐賀市立雄飛学園

金泉中学校

I はじめに

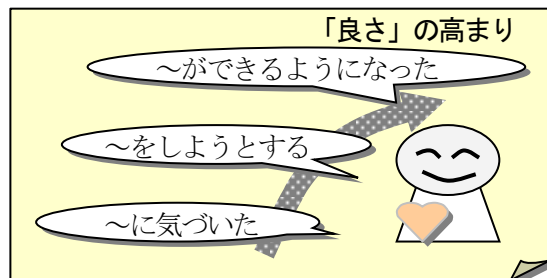
● 開発的生徒指導とは

- 学校教育に関係するあらゆる場面で進める生徒指導のことです。

教科・領域等、部活動の教育場面に加えて、小中連携に関すること、地域連携に関することなど生徒が生活するあらゆる場面に関わります。

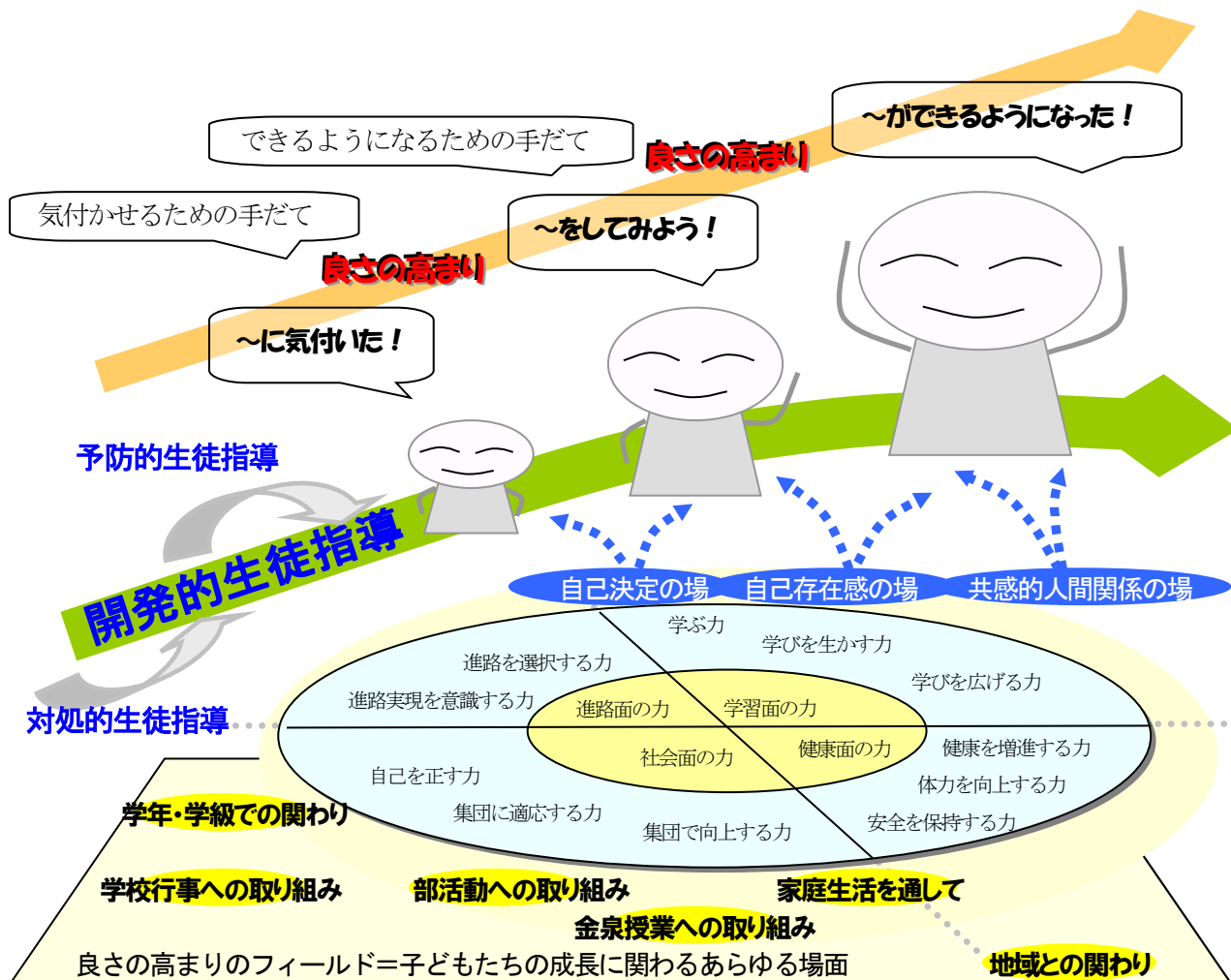
- 開発的生徒指導の視点は「生徒の良さを伸ばし引き出すこと」です。

課題があれば、その課題に気づかせること、気づかせたらどう取り組めば解決するかを考えさせ、自分でできるようにさせることが開発的生徒指導です。気づくことが良さであり、取り組もうとすることが良さであり、取り組めるようになったことが生徒の良さなのです。そのためには手だてを仕組まなければなりません。その手だてを通して生徒がもっと良くなることが開発的生徒指導なのです。



- 開発的生徒指導は対処的生徒指導と予防的生徒指導と連動しています。

生徒の良さを伸ばし引き出すためには、学校で教えることや躡けることがあります。例えば集団指導においては対処的生徒指導が必要な場面が多いでしょうし、学級や学年で人間関係を育むためには、予防的生徒指導として話をする場面が多いと思われます。開発的生徒指導は、このように対処的生徒指導や予防的生徒指導と大きく連動しています。



Ⅱ 「元氣あふれる」金泉中学校の教育計画

1 教育指導の構想

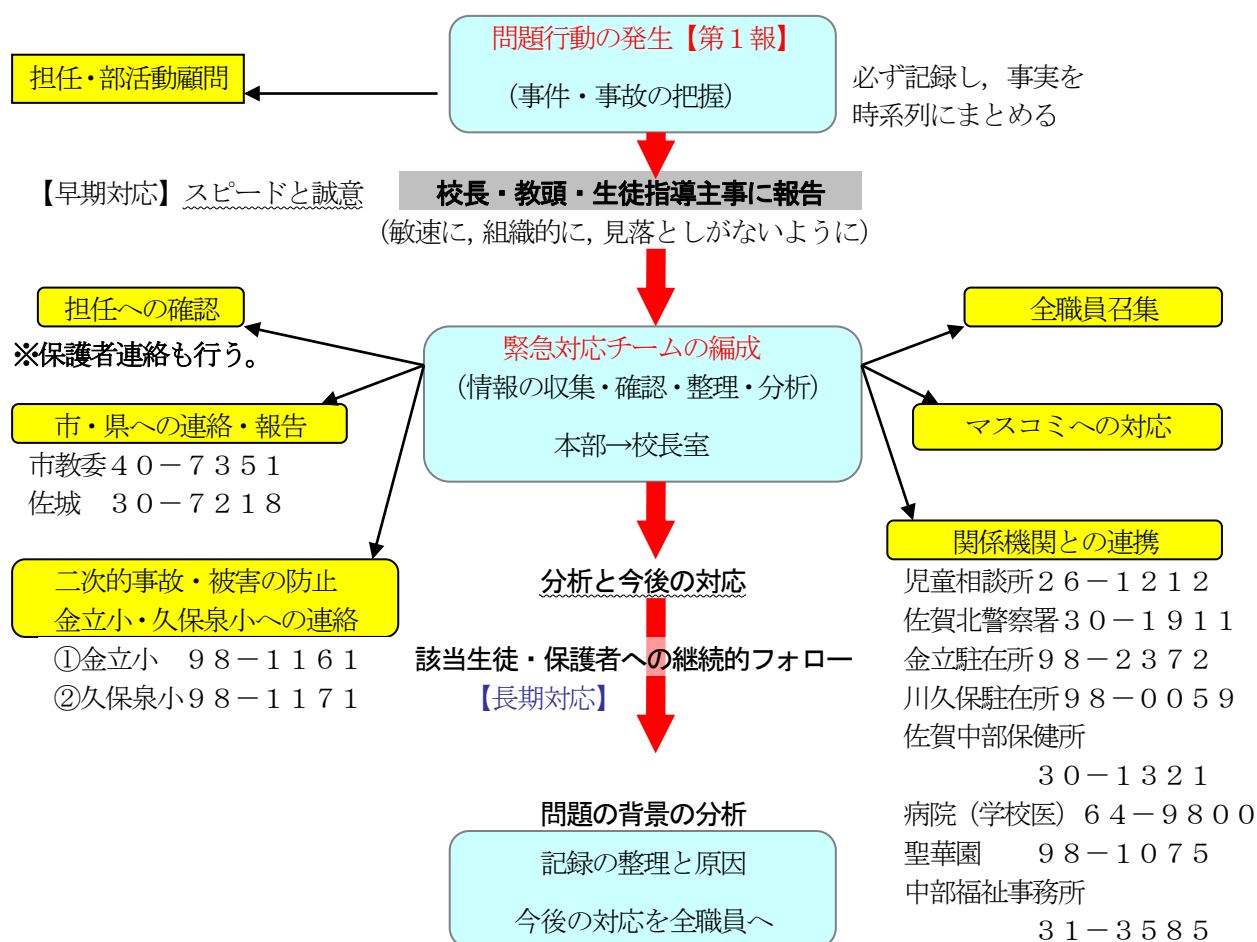


Ⅲ 生徒指導部の機構と問題行動発生・事故発生時の指導体制

1 生徒指導部の機構

係	主任	1年	2年	3年
生活指導 集団指導	一丸 慎二	野田 敬義	池田 徳子	一丸 慎二
教育相談 不登校指導	三根 頌平	飯笹 智子	三根 頌平	一丸 慎二
清掃指導	丹野 駿	野田 敬義	丹野 駿	福吉 貴大
交通安全	野田 敬義	野田 敬義	丹野 駿	一丸 慎二
生徒会	中尾 亮	時貞 里沙	池田 徳子	中尾 亮
部活動	野田 敬義			

2 問題行動・事故発生時の危機管理対応



ア 緊急対応チームの設置

- ① 事故等の事情把握と発生原因の究明等を行う。
- ② その処置・対応について協議する。

イ 緊急対応チームメンバー

※ 生徒の問題行動のレベルはP13参照

○ **危機レベルA**

当該教員、学級担任、学年生活指導係、生徒指導主事

○ **危機レベルB**

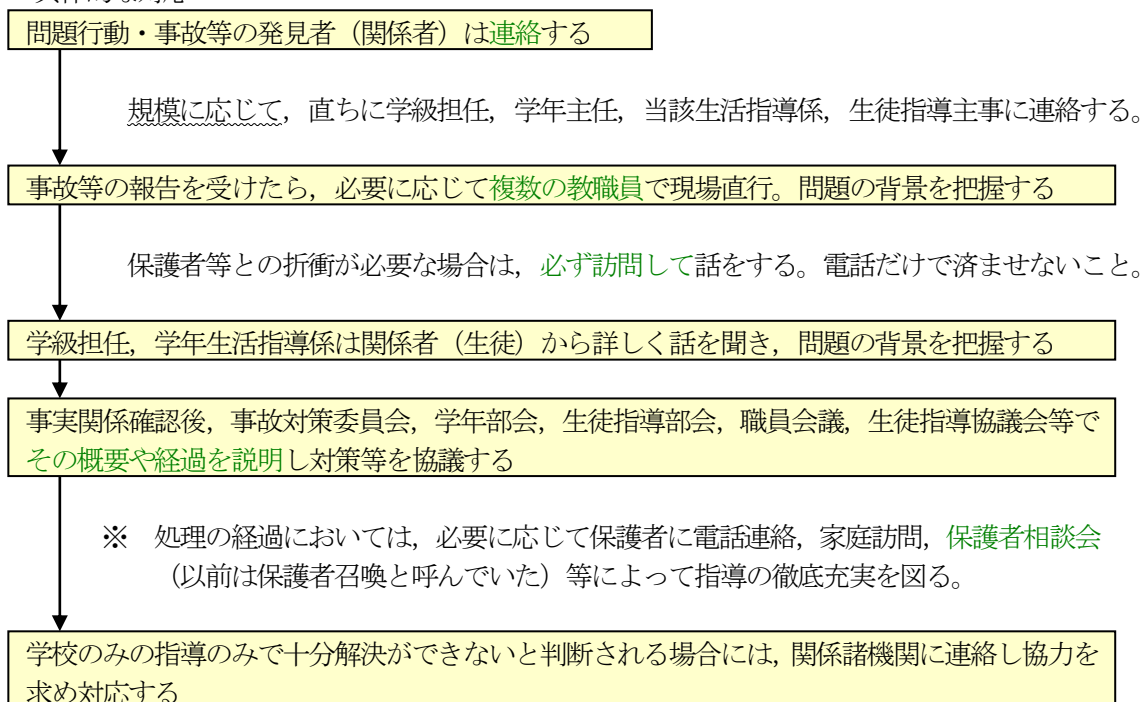
当該教員、学級担任、学年生活指導係、生徒指導主事、校長、教頭、教務主任

○ **危機レベルC**

当該学年スタッフ、部活動顧問、他学年主任、生徒指導部内の関係教諭、養護教諭、3役

※ 生徒の自殺、生徒間暴力で一方が重症、対教員暴力、体罰で告訴などのマスコミレベル

ウ 具体的な対応



保護者相談会について

保護者相談会のねらいは、子どもに「立ち直ってほしい」、「あなたを愛する人たちの願いを受け入れて良くなってほしい」ということを子どもに伝えたり、今後の生活がより良い方向に進むように保護者と子どもと学校が一緒になって考えたりすることです。

保護者に寄り添い、子どものことを一緒に考えようとする態度や気持ちを保護者に伝えることが大切です。そのためには、次のことに配慮しながら会を運営することが望まれます。

① **期日と場所の設定について**

「期日と場所はいかがいしましょうか。ご都合をお聞かせ下さい。」

② **学校側の参加者について**

保護者、生徒側の数と同じくらいが良いでしょう。

③ **保護者教育懇談会**

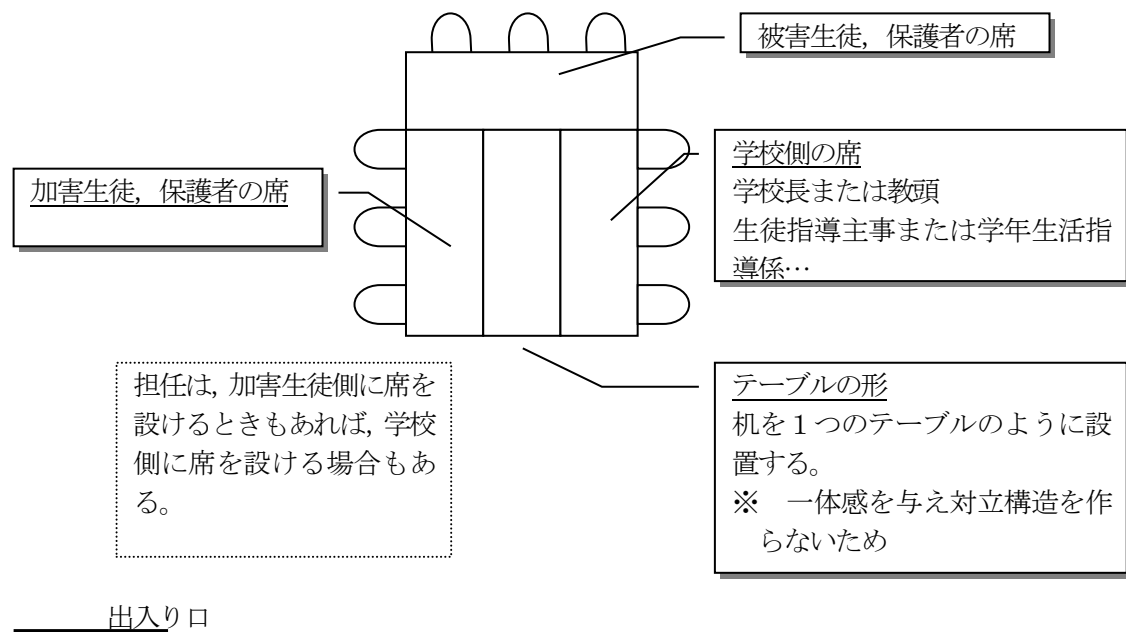
保護者相談会以後の生活について懇談するために開催します。S・C等に参加依頼し、和やかなムードで進めましょう。



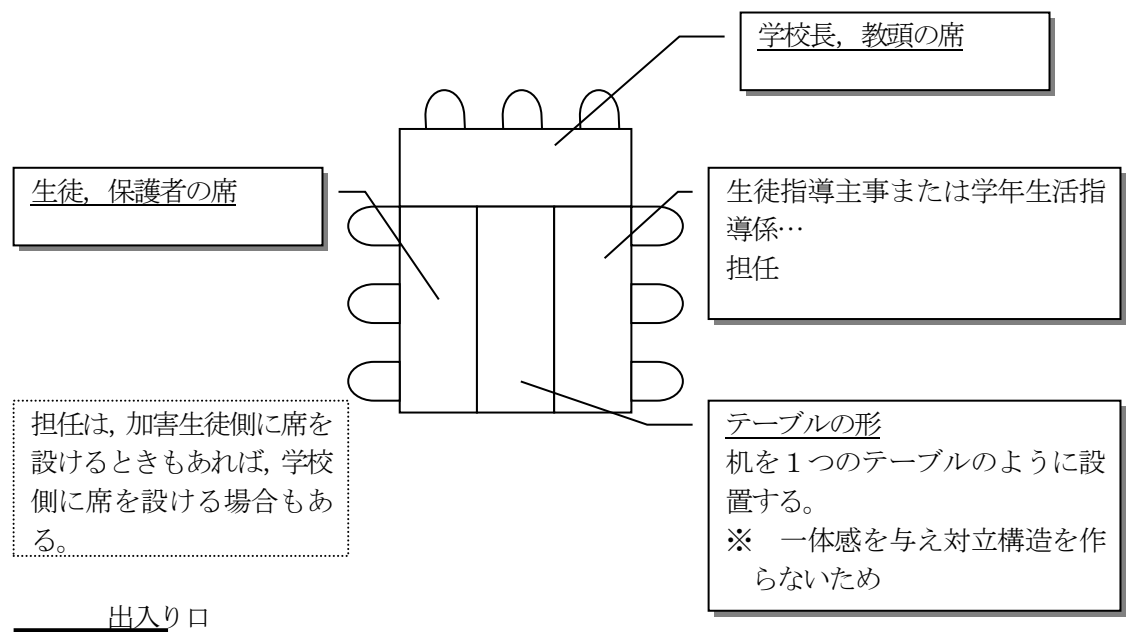
※ 保護者相談会の会場設置図

○ 会議室利用の場合

生徒間に被害者と加害者が生じ、和解または、謝罪のための会場を設置する場合



問題行動等の保護者相談会会場を設置する場合



○ その他の会場

教育相談室, 応接室, 特別活動室が利用できる。

IV 生徒指導春夏秋冬～開発的生徒指導の実践のために～

■ 黄金の一週間

本校では、生徒が一年間学校生活を送る中の節目を「黄金の一週間」と呼んでいます。節目とは、年度始めや学期始め、行事においては修学旅行や体育大会、文化発表会などがあります。また、部活動においても節目があります。新チーム発足の時、大きな大会の前後などがそれです。

節目の時は、生徒も普段以上に「今回はがんばろう」や「今度はこんなことにチャレンジしよう」という気持ちになっています。3年生に進級したすぐに、「勉強がんばるから!」と保護者に話したり、「部活動がんばりたい。」と学活ノートに記したりするのは、節目を機に心を入れ替えて伸びたいと思っている証拠でしょう。このような時期や時間を「黄金の一週間」と呼んでいます。意欲的になり、主体的に動こうとするという輝きを放っているのです。ですから、我々教職員は普段以上に手だてを仕組みさらに伸ばしてあげたり、ルールや決まりを定着させてより良い学校生活のスタートをさせたりしなければなりません。

■ 黄金の一週間への取り組みはやがて黄金の一ヶ月を作る

生徒にとって学校生活はすべてが学びの場です。生徒は学びを通して成長します。黄金の一週間では、学ぶ喜びや学んだ喜び、学びを生かすことができる喜びを味わうことができます。

節目ごとに学びに対する喜びを持つことができれば、学校全体が活性化し、元気あふれる生徒が育ちます。さらには、学びの連続が学校としての黄金の一ヶ月をつくり、やがては学校が黄金の日々を迎えます。つまり体力のある学校として主体的な活動ができる「元気あふれる学校」を創造していくのです。



■ 学級づくりの黄金の一週間

開発的生徒指導を進めるにあたって、年度当初の学級づくりが一番大切といっても過言ではないでしょう。

生徒は学級で一日を過ごします。しかし、その学級は全校級のうちの1学級です。学校として集団生活をするわけですから、そこにはルールや決まりがあり、その枠の中で学級は活動します。つまり、ある学級とある学級に生徒指導における指導の差があってはならないのです。ある学級では許されることがある学級では許されないことではいけません。例えば、A組は8時10分に教室に入室すれば遅刻ではないが、B組では8時10分に校門をくぐらないと遅刻になる、ではいけません。B組では、体育の服装で授業を受けても良いが、A組では制服に着替えて授業を受けなければならないでは、生徒は迷います。

つまり、開発的生徒指導を進めるためには少なくとも学校生活をする上でのルールや決まりを教え定着させなければならないのです。

ルールや決まりは年度の途中で教えよう、躰をしようとしてもそう簡単にはいきません。だからこそ、黄金の一週間に取り組み定着させるべきことなのです。

〇〇中学校は
今、
黄金時代やね!



「スタートが肝心！」～黄金の1週間で定着させる1日の流れ～

指導項目	時間・時刻	指導方法・内容
登校指導	～8:10	朝の登校指導 8時10分までに教室入室できなければ遅刻です。 8時10分にはバックを棚に入れ、席について置くように指導しましょう。  これが 朝の生徒指導! ※ 校門指導…生徒指導主事は8:05まで校門で登校指導を行います。 * 登校指導の目的は、登校の様子（一緒に来ている生徒、交通マナー、健康観察等）を把握するためです。 * 気付いたことは必ず職員室の話題にすることが大切です。 * 登校指導では一人一人に「おはようございます。」とあいさつします。たまに言葉をかけましょう。※あいさつ+名前でその子の存在を承認します。 * 教員特有の威圧感のある表情、冷めた表情は厳禁！笑顔で元気よくあいさつします。 *  生徒が、気分がよくなる具体的な言葉かけ 「テスト、がんばっていたね。」 「昨日の練習試合勝ったそうだね。」 「昨日の学年集会の発表、よかったよ。」  生徒にこちらの心配を暗示させる具体的な言葉かけ 「自転車の空気が入ってないようだよ。」 「風邪は治ったかな。」 「いつもと登校時間が違うが何かあったか。」  これが 開発的生徒指導! ※8:30以降に登校は、職員室で登校確認表を記入し、教室へ。 (登校確認表は、職員室の教頭、教務席の前に置いてあります。)

- * 「自転車小屋の並び」や「くつ箱がきれいにしていることで気持ち良く上がることができる」ことや「自宅の玄関を清潔にしていないと気持ち良く生活できないこと」で例えながら、ボランティア精神を育みます。「そろえる」の徹底をしましょう。

- ♥ 教師がくつ箱掃除を進んで実践する目的は、「自分もやろう!」と思う生徒を育てることです。
- ♥ 生徒会や学級で「自分も私たちもくつ箱掃除をやろう!」という盛り上がりを生徒に仕組むことが大切です。



- くつ箱指導…学年の副担任から一人、養護教諭で指導します。
- 学年フロアでの指導…学年の副担任で指導します。

※ 遅刻指導について

将来社会人として巣立つ生徒に対して、「時間を守る」や「余裕を持って行動する」ことを指導し実践できるようになることは大切なことです。特に、遅刻は社会生活において、周囲や相手から信用を得る第一条件といっても良いでしょう。

そこで、遅刻の指導については丁寧に指導したいと思います。

担当箇所	配 置
校門 生徒玄関 学年フロア	生徒指導主事 ○, ○○, ○○, ○○ 1年: ○○ 2年: ○○ 3年: ○○



遅刻指導①…校門での指導

生徒指導主事が遅刻指導します。
生徒の家庭生活や健康状態に配慮しながら指導します。

遅刻指導②…生徒玄関での指導

生徒玄関担当の教員が遅刻指導します。校門での指導を考慮しながら、声かけをします。

遅刻指導③…学年フロアでの指導

校門での遅刻指導、生徒玄関での遅刻指導を受けたことを確認する程度ですが、一言添えて教室へ入室させてください。

指導項目	時間・時刻	指導方法・内容
始業前 朝の放送	8：10	全員が席についておくように指導しましょう。
朝の会 朝の行事	8：15	○ 朝の会・朝読書の時間

※ 朝の会を始める際は、生徒机の上に学習道具が載っていないように指導します。

♥ 朝の会をするときは、会にふさわしい状態で望まなければなりません。今日一日の日程をみんなで確認する大切な時間です。



ここが
積極性指導!

※健康観察簿や課題関係、
その他の提出物は8:30以降に提出すること!

8：30	
------	--

※朝行事予定表

	月	火	水	木	金
1年	第1週:全校朝会 第2週:学年別朝会	学年集会・朝会は学年別に場に応じて			職員朝会
2年	第3週:生徒朝会	朝の会 朝自習	朝の会 読み聞かせボランティア お話タイム	朝の会 朝自習	
3年	第4週:全校朝会 第5週:				

※集会の際は、放送がかかってからフリースペースに並び、体育館へ移動します。

※ 学年集会では次のことに留意して計画します。

♥ 活躍の場を一人一人に与えましょう。

♥ 学級や学年のリーダーとして育てたい生徒に活躍の場を与えましょう。

♥ 活躍の大小を問わず、頑張ったことに対して賞賛することが大切であることを学ぶ場を作りましょう。

♥ 集団行動時の整然とした雰囲気や緊張感、および場の雰囲気を読む力を育てましょう。



ここが
積極性指導!

授業	8：40	○ 授業の始まりと終わりのけじめをつけます。
----	------	------------------------

○ 「早く授業をはじめたい」や「早く終わりたい」という気持ちが先立ってはいけません。チャイムと同時に授業が開始できるようにしましょう。

○ 次の3つの視点を入れて授業を構築しましょう。
「自己決定の場」「自己存在感の場」「共感的人間関係の場」



ここが
積極性指導!

指導項目	時間・時刻	指導方法・内容
教員 の 空き時間		○ 保健室の状況を把握しましょう。 ○ 次の時間が空き時間の場合は、校内や自学年のフロアーを巡回して職員室に戻りましょう。 ※ 休み時間は生徒の実態がつかみやすい。
昼 食	1 2 : 3 0 <u>1 2 : 3 5</u> 食事開始	○ 担任、副担任は昼食指導をします。※5分で準備を心がけます。 ○ 配膳台を布巾で拭きます。 ○ 学年職員全員で昼食の準備指導をします。
昼休み		○ 人の弁当にケチをつけない！ ○ 立ち食い、立ち飲み（牛乳）をしない！ ○ 床に座って食事をしない！ ○ ベランダで食事をしない！ ○ 立ち歩かない！ ○ 食事のやり取りをしない！ 
	1 3 : 1 0 まで	○ 係、日直の仕事を徹底させましょう。 牛乳パックの後片付けは必ず昼食後に！ ○ 全員の食事が終了したらすみやかに給食の食器を戻すようにしましょう。 ○ きちんと昼休みを過ごしているか確認しましょう。 <u>メディアセンター・教室・フリースペース・トイレなど</u> ※昼休みの見回り当番表を見て、各学年で見回る。（2人体制で） ※生徒呼び出し等は1 3 : 0 5以降。 ※担任は給食当番に呼びかけ！
予鈴 本鈴	1 3 : 2 5 1 3 : 3 0	
		○ 予鈴後、慌てて教室に移動したり、牛乳パックの後片づけをしたりしないようにさせましょう。 ○ 移動教室時は、教室の電気を消して、戸締りするよう習慣をつけてください。 
持ち場に 移動 清掃活動	1 5 : 2 0 1 5 : 3 5	○ 全職員で指導にあたります。 ※最終授業終了後迅速に掃除に取りかかる。（黙動清掃） ※職員の取り掛かりも早くお願いします。 ＊ 職員室には職員室担当の生徒と先生が清掃活動をしています。 ＊ 清掃時間内は清掃活動をします。 ※ 時間一杯取り組ませてください。（掃除時間中に配布物を配るのはやめましょう）
教室に 移動	1 5 : 3 5	○ 副担任は、そのまま学年のフロアーに待機しながら、生徒の教室入室を指示します。

指導項目	時間・時刻	指導方法・内容
帰りの会	15:40	○ 帰りの会の放送時は着席、黙想をして聞く。 ○ 帰りの会は、制服が基本です。
帰りの会終了時刻まで教室を出ないようにしてください。帰りの会が延長しているクラスの前の廊下では「待たない、しゃべらない、さわがない」で指導してください。 		
		○早く帰りの会が終了しても、終了時刻までは教室を出ないように指導しましょう。
放課後 部活動	16:00	○ 気になる生徒との教育相談をします。 ○ 部活動への取り掛かりは速やかにさせます。
＊ 学校、学年、生徒会の行事等で活動する時は下記の点に配慮してください。 ① 事前に職員朝会で報告し、職員の了解を得る。 ② 大会等が迫っている部活動については特別に配慮する。 ③ 部活動顧問には必ず生徒本人に毎回連絡させる。 ④ 課後の活動は生徒に理解、納得させて行わなければいけません。生徒に不満が残ってはいけません。また、部活動のサボり癖がついてもいけません。 ⑤ 午後5時には部活動に参加できるようにします。 ⑥ 必ず生徒だけの作業、または学習にならないように教師がつきます。		
各委員会への参加について 各部委員会に参加する礼儀として部活動の着替えは決められた場所で着替えるよう指導します。各部委員会に参加する生徒は部活動の服装に着替えしないで参加します。 		
教室の チェック		○ そうじの時間や帰りの会中に教室の環境整備のチェックをします。前や後ろの棚に牛乳パックがあったり、教卓に余ったプリントが載せてあったりしてはいけません。生徒が帰ったあと、机椅子がくねくね並んではいけません。前後の掲示用ボードに貼り付けてある掲示物がはがれてはいけません。学習環境は常にきれいに保つことが生徒指導の基本です。
生徒が自主的にできるようになるまで指導しましょう。 		

開発的生徒指導春夏秋冬 その2

身だしなみの指導！～正しい身だしなみを心がける雰囲気をつくる～

身だしなみの指導（正しい制服の着こなしの指導）は、中学校の生徒指導の中では大変大切な指導です。男子の「腰パン」「シャツだし」、女子の「ミニスカート」「第一ボタン（ホック）はずし」を永遠の指導項目としないようにしたいものです。

女子生徒の場合のはじめの一步はストレートパーマ、ストレートパーマの次は眉毛そろえ、眉毛そろえの次は茶髪、携帯電話、その次は夜間徘徊、夜間徘徊で会うのは、他校の問題行動の生徒、有職、無職少年、最後はそれらの少年たちとの関係・・・このように発展することが予想されます。

問題行動はその階段の登り方を教えないことが大切です。つまり、はじめの一步を踏み出させないために、学校の生徒指導はどうあるべきかを共通理解し、開発的生徒指導のプランニングをしなければなりません。



「はじめの一步」を見逃すと、場合によっては問題行動の階段を登り始めます。問題行動の階段を登り始めた生徒は、周囲のそれまでの関わり方、それからの関わり方しだいで立ち直ることも予想されますが、放っておくとその生徒一人の問題だけに終わらず、学校全体に服装の乱れや時間に対するルーズさ、または対人関係などで良くない雰囲気が漂い始めることがあります。そうすると元のような良い雰囲気に戻すのは大変です。

生徒の問題行動は、一人一人育った環境や周囲（家庭、地域社会、教職員など）との関わりの深さによってさまざまです。したがって、必ずしもその生徒の変容が危機レベルのランク通りではありません。

【問題行動に対する学校の生徒指導危機レベル】

危機レベル	行動面や内面の現れ	
レベル5	薬物乱用、有職・無職少年や暴力団との関係	
レベル4	教員への暴言・威嚇・挑発、生徒間暴力、対教員暴力、恐喝・たかり、器物損壊、いじめ、自傷行為	○ 開き直り方を知り、大人の指導を受け入れなくなる
レベル3	外泊、夜間徘徊、喫煙（男女）	○ 自宅への帰宅時刻が遅くなり、家庭の指導が効かなくなる
レベル2	茶髪等、他校の問題行動系の生徒との交友関係	
レベル1	ジェル等の整髪剤の使用（男子） ストレートパーマ（女子）、眉毛の手入れ（男女）	○ 無断早退、授業エスケープ
	派手なアンダーシャツ柄物や濃い色の下着（男女） 靴のかかとつぶし、上靴やスリッパへの落書き（男女）	○ 遅刻を常習するようになったり、指導する教員によっては態度を変えたりする
	腰パン、シャツだし（男子） ミニスカート（女子）、袖・胸元のホックはずし（男女）	

上の表に記した問題行動の類別と学校の生徒指導における危機レベルは、これまでの教職員が学校教育の中で経験したことを基にしたものです。

大切なことは一生徒を問題行動への深みに入り込ませない、また、学校がいつのまにか荒れてしまっていたとならないように、およそそのような段階で生徒の問題行動は進んでいくと理解しておかなければなりません。



開発的生徒指導で行こう！

問題行動への発展する一因が服装の乱れからとは言えませんが、少なくとも身だしなみを整えることができる生徒が多かったり、身だしなみを整えることが大切なことと知っていたりする生徒が多数であれば、学校は大きく崩れることはありませんし、そのような環境下でいっしょに過ごしている問題行動系の生徒もいきなり崩れることはありません。そのためには、学校の教職員が身だしなみを整えさせる目と実践力を備えておくことが大切です。つまり、身だしなみの指導は、生徒の服装が乱れない限り行えませんので、直接身だしなみの指導を行う時は対処的生徒指導や予防的生徒指導で対応するということになります。

1 対処的、予防的生徒指導で対応する「はじめの一步」

～日々の生徒指導の中で身だしなみの指導を進める～

身だしなみの指導は生徒の学校生活すべての時間において行われなければなりません。また、職員全体で進めなければなりません。学校生活すべての時間とは、学級での時間（朝の会、帰りの会、学活の時間など）教科の時間、部活動の時間などです。授業が始まるときにすんなり授業をはじめめるのではなく、起立をしたときに服装を正させることをします。昼休みに元気に遊んでいた生徒がよくシャツを出して5時間目に臨もうとします。そのまま授業を行うのではなく教員が生徒の服装を確認し休み時間と授業はちがうということを示してあげなければ生徒は分かりません。10分休み、廊下ですれ違う際にシャツが出ていたり、腰パンをしていたりしたら、その場で正させる指導をしましょう。このような指導は職員全体で取り組むことが大切です。生徒に迷わせないように先生による指導のブレがないようにしましょう。



では、身だしなみの指導を開発的生徒指導で取り組むということはどのようなことなのでしょう。

2 生徒会活動で盛り上げる身だしなみの指導～生徒の意識を変える開発的生徒指導～

教員主体の身だしなみの指導は、生徒にとって受動的であり、生徒は「指導されている」という印象を持ちます。「自分たちの学校は自分たちで良くする」という意識付けが、身だしなみの指導にとどまらず、他の活動にも波及し、能動的な生徒の活動による「元気あふれる学校」の創造へとつながります。

しかし、生徒は「みんな、こんな身だしなみでいいのだろうか。ちゃんとしなければいけないんじゃないかな。」と思っていても、改善するための行動を自分からみんなに発信するということはなかなかできないものです。

生徒会生活部が服装検査等を行うことはよくある活動ですが、その先がなかなか進みません。生徒一人一人が身だしなみを意識しながらお互いを正そうとする雰囲気まではなかなか発展しません。つまり、検査と呼びかけで終わってしまうということです。

そこで教員集団は「手立てを仕組む」ことをしなければなりません。生徒会の活動が生徒会の活動で終わってしまわないように、教員が支援したり、援助したりしなければなりません。

身だしなみを正す生徒を育てる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	生徒の活動や生徒の伸び
【気づく！】 手立てを仕組むために生徒に働きかける ○ 生徒会担当の教師または、生徒会生活部担当の教師が生徒会活動年間計画に通年の活動として身だしなみを整える等の活動を盛り込むよう働きかける。	
【生徒会生活部目標】 地域の方々や来校者に印象の良い身だしなみを心がけよう！	
【やってみようと思った！】 生徒の案を生かし、その案を発展させる ○ 身だしなみに関する生徒会活動は具体的な活動項目を設定し、学級での係活動で取組まなければならないが、身だしなみの指導の実際は教師が行うのが望ましい。つまり、生徒会活動などで身だしなみを良くする手立てを仕組む場合、「身だしなみを整えるという生徒会による呼びかけ」とそのチェック機能を充実させ、実際に正させる指導は教師が行うようにする。これは、生徒間のトラブルを防止するためである。 ○ 地域の方々や保護者にもプレゼン時に参加してもらい感想などを聞き、地域、保護者の願いを生徒へ反映させるというプランに発展させても良い。	
【できるようになった！】 生徒の努力（良さ）を認め、ほめる ○ 生徒間に身だしなみを整えた学校生活を送ることが落ち着いた学校生活の基本という雰囲気が広まるよう、教師は日々の身だしなみの指導を進めていくことが大切である。	
○ クラス共通の学活の時間、または臨時時間割を仕組み、年度初めに上の生活目標を達成するためにプレゼン（仮タイトル「好感を持たれる制服着こなしファッションショー！」）を企画する。 生徒朝会で行うのが望ましいが、合同帰りの会や合同朝の会等を企画して取組む。  ○ 生徒一人一人が自ら服装を正して儀式的行事や集会、または授業に臨む雰囲気を作ることが大切と自覚しながら実践している生徒を生かす。 ○ 多くの生徒が自ら身だしなみを気にするようになれば、そうでない生徒も自分だけはずれた格好をするのが何となく恥ずかしいような気になってくる。	

先にも述べたように、服装の指導は、学校の生徒指導を進める上では指針となります。仮に服装が乱れる根を持っている生徒がいたとしても、この学校は腰パンやシャツだし、ミニスカートなどをすることが許されない環境と感じさせることが大切です。そのためには、開発的生徒指導の一例にあげたように、生徒会で年間の活動として「好まれる制服の着こなし方」などの取り組みをすれば、学年が変わろうが、学校スタッフがかわろうが、そう簡単に乱れることはないでしょう。

清掃活動の指導！～生徒も職員もみんないっしょに取り組む～

気持ちよく学習活動を進めるために、学習環境をきれいにしておきたいものです。教室や階段に綿ほこりがたまっていたり、廊下の隅の方がうっすらと白くなっていたりしているのは好ましくありませんね。元々、清掃活動をやりたくてやっている生徒はそう多くないでしょう。むしろ、少ないのではないのでしょうか。ですから、指導が行き届かないと活動自体に個人差が出てきます。そうすると、注意しなければならなくなります。常時対処的生徒指導で指導しなければならなくなります。

見ていてつい褒めたくくなるような、意欲的な清掃活動を定着させたいものです。

掃除区域が教師不在の場合、生徒は「抜く」ことを覚えます。また、いじめの発生が一番多いのが、掃除の時間です。掃除の時間は常に生徒と一緒に活動することが大切であり、真面目に取り組む生徒をしっかり見てあげましょう。



開発的生徒指導で行こう！

清掃指導は生徒指導の中でも特に大切な生徒指導です。上の吹き出しにあるように、清掃活動は生徒にとって面倒な活動です。したがって、指導を怠ると「する子」「しない子」の差がでできます。また、いじめが起きるのも清掃活動中が最も多いでしょう。そういう意味においても清掃活動が生徒にとって息抜きの時間であったり、自由時間であったりすることがないように位置づけなければなりません。

教員自らすることも大切ですが、つい掃除に一生懸命になりすぎて、気が付けば生徒はおしゃべりをしていた、とならないようにしましょう。また、心の中で「先生がやってくれるから・・・」と思われたいようにするためにも、教員は「清掃指導をする」ということを忘れてはいけませんね。

6時間目の授業がやっと終わって「一息・・・」つきたいところですが、清掃活動指導担当場所へは、生徒よりも早く行きましょう。

【清掃活動を開発的生徒指導で進めるための教職員の共通理解】

望ましくない清掃活動中の教職員の行動	
■ 職員室や準備室等で仕事をする	仕事が繁雑で10分休みも昼休みも朝も放課後も、だから清掃活動時も、と言いたいところでしょうが、清掃活動時は、校長先生も教頭先生も教務主任の先生も事務室の先生方も一緒に清掃活動に取り組みましょう。
■ 大切な話と称して立ち話をする	職員室の水場や廊下での立ち話は遠慮しましょう。もし、緊急を要する大切な情報交換や相談事であれば職員の更衣室などの場所で話しましょう。
■ あまり清掃活動に取り組んでいない生徒をよそにせつせと清掃活動に取り組む教職員	清掃活動は指導をしなければならない時間です。一緒に清掃活動をするにもそこには「指導」がなければなりません。清掃活動の方法が生徒に定着するまでは、して見せることも大切ですし、言って聞かせることも大切です。また、対処的生徒指導できびしく対応しなければならない時もあるはず です。

【清掃活動を開発的生徒指導で進めるための指導の基本】

指導項目	生徒の清掃活動
机引き	* 清掃活動前に椅子を机の上に載せる。 * 机は両手で抱えて移動させる。教卓やゴミ箱も移動させる。 * 机の中には道具を多く入れない。机の横フックに大きなものを掛けない。
掃き掃除	* 隅々のごみ、綿埃を残さず掃く。 * 机や椅子の脚に付いた埃をとる。
拭き掃除	* 雑巾を固く絞って床や窓の棧を拭く。
黒板掃除	* 黒板の溝は粉をとってから水拭きする。黒板は水拭きしないでしつこく黒板消しできれいにする。
ゴミ捨て	* 燃えるごみ、プラスチック類、ビニール類に分ける。それぞれのごみ袋に半分程度ごみがたまったら、体育館東のごみ置き場に持っていく。
掃除終了時	* 掃除道具の整理整頓を確認する（掃除用具入れをきれいに!） * 特別教室、トイレ等は、窓を閉め必ず戸締りをする。

「清掃活動を開発的生徒指導で進めるための指導の基本」の項目については、原則的な項目なので、学年の取り組み方を優先させる場合もあります。

清掃活動を活性化させる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	良さの段階や生徒の伸び
[気付く!] 先生と一緒に清掃活動に取り組みながら掃除の仕方を知る	
○ 床の雑巾がけをしてみせる。うまくできている生徒はその場でほめる。 ○ 黒板の下は雑巾がけしないときれいにならないことを生徒に教える。	○ 廊下の隅にある綿埃や教室の隅にうっすらと積もった白い埃に気づいた。 ○ 一人ではなかなかできないが、何人かの仲間と一緒にだったらできる。
[やってみよう!] 先生と一緒に雑巾がけする生徒が少しずつ増えてきた	
○ 黙々と清掃活動に取り組んでいる生徒をクラスや学年で紹介する。	○ 清掃時間内は仕事を見つけて自ら清掃活動に取り組む生徒が増えてきた。
[できるようになった!] 多くの生徒が自分の持ち場で意欲的に清掃活動に取り組んでいる	
○ 学年通信等に生徒のがんばりを紹介する。 ○ 生徒会活動で「清掃コンクール」を実施するよう働きかける。	○ 自分の子供、孫、曾孫の代まで今のきれいな校舎を保たせようという思いで清掃活動に取り組む生徒が増えてきた。 ○ 生徒会の各部委員会で実施し、クラス単位で表彰される。



開発的生徒指導を
気持ちよく進めるために!

開発的生徒指導を気持ちよく進めるためには、校時限から見直さなくてはならない場合があります。

掃除終了時刻と、帰りの会スタートの時刻が同じということは生徒にとっても困ったことです。とにかく急い

で教室に戻らなければならないのです。総務や日直は学級のポストの確認もしなければなりません。時す



でに帰りの会が始まっている時間です。「時間を守ることができるようになる」という指導に矛盾が発生してしまいますので、生徒も戸惑い、教職員側は常に対処的生徒指導で臨まなければなりませんね。もちろん、担任は“ちょっと道具を取りに職員室まで！”がなんとなくいけないことのように思えてきます。生徒指導の体制が整っている学校では、“担任の先生は清掃活動担当場所に帰りの会の道具を持って行き、そのまま教室に行きましょう”なんて動きを共通理解している学校もあるでしょう。ついでに言うならば、暑い時期に生徒は水分補給します。昼休み以降、時間が継続していると、“水やお茶を飲んではいけない、なぜならば掃除の時間であり、帰りの時間だから”となってしまう。これもまた不自然だと思いませんか。だからといって帰りの会に水やお茶を飲んでよいとすると、学級ごとに指導のズレが生じます。仕舞いには、「ほら、帰りの会始まったよ。水筒片付けなさい。」と尖った表情をしなければならなくなります。5分の移動時間があれば、その時間に水分補給もして良いとできます。帰りの会スタートのチャイムがなると、廊下で指導している副担任の先生が、窓越しに指導もできます。しかし、担任の先生のもと帰りの会が始まっている状態では窓越しの指導も躊躇しませんか。

良いところ、できているところを「認め伸ばす」「引き出して伸ばす」という開発的生徒指導を進めるためには、あえて、対処的生徒指導をしなければならないかもしれないシステムを解消することも大切です。つまり、学校の規則やきまり、主に教職員集団が決めたことが、指導の幅を狭くしたり指導しにくくなったりさせていることがあります。5分や10分早く終わることをよしとするか、ゆとりを持って指導しやすくするために終わりを少しだけ遅くするかということになります。

本校では、平成18年度から清掃活動終了時と帰りの会スタート時の間に5分間のゆとりを取っています。終わりの5分間は清掃活動場所から教室への移動時間という位置づけになります。この5分間が生徒も教職員にもゆとりを生み、余計な対処的生徒指導をせずに、開発的生徒指導を進めることができます。

「掃除の時間が始まりました。生徒のみなさんは時間まで一生懸命清掃活動に取り組みましょう。」という生徒会の放送とともに教職員は生徒とともに今日の清掃活動目標や安全点検箇所を確認することができます。

【午後の時間割】

昼休み	12:35～13:25
5校時	13:30～14:20
6校時	14:30～15:20
掃除の時間	15:20～15:35
移動	15:35～15:40
帰りの会	15:40～16:00

掃除の時間の後に5分の余裕があります。

体力のある学校づくりのために係活動を活発化する！

～生徒会活動につながる学級の係活動は学校の基礎体力～

各部委員会のために話し合いでは建設的な意見がでていますか。各部委員会で発言するための話し合い活動が生徒任せになっていませんか。

生徒会活動が生徒会の担当教師に任せっきりになっていたり，月一回の各部委員会の活動に担当教師が出席しなかったりしていませんか。



生徒に対して「どんな学校にしたいか。」や「元気あふれる学校はどんな学校ですか。」というアンケートをとると，右のように回答します。

生徒の回答から伺えるように，教職員が基本的生活習慣を徹底するために指導したい内容と合致していることが分かります。教職員は，このような生徒の願いを現実化させたいと思いつつも，つい，対処的に対応したり，予防的に対応したりしながら生徒指導を進めようとします。しかし，そのような指導では，「学校が良くなった。」と感じる生徒は増えてくるかもしれませんが，「自分たちの力でできるようになった。」という意識は芽生えにくいでしょう。「あの先生がいたから学校が落ち着いていたんだ。」「あの先生が厳しく指導していたから生徒が良かった。」と生徒は感じるでしょう。学校が荒れだすと「あの先生に帰ってきてほしい。」という声が保護者，地域から聞こえるようになります。そうすると「もはやこれまで！」，荒れだした学校を再生しようにも周囲からの不信感や批判が多くなり，学校再生も長期戦になってきます。

- ・元気にあいさつできる
- ・きれいな学校
- ・授業を真剣に聞く
- ・遅刻がない
- ・みんなが仲良し

つまり，「先生の指導で学校が良くなった。」ではなく，「僕たち私たちの力で学校が良くなった。」「先輩たちの実践を私たちがしっかり受け継ぎ学校をさらに良くしている。」と生徒たちが感じるような活動を仕組まなければなりません。

開発的生徒指導で行こう！

体力のある学校とは，大きな問題行動が長年起こらない学校，または，多少問題行動系の生徒がいても，その他の生徒は問題行動系の生徒の影響を受けない学校，もしくは，問題行動系の生徒が数名いたとしても生徒指導上大きく崩れることがない学校のことを指します。つまり，一部問題を持っている生徒がいたとしても，誘惑や楽な方向へ流されない生徒が主流を占めている学校と例えることができます。そのような学校では逆に問題行動系の生徒が学校を引っ張る生徒たちの活動に心を動かされて，いつの間にか問題行動系ではなくなってしまうことがあります。

では，学校を引っ張る生徒とはどのような生徒なのでしょうか。上述したように，体力のある学校づくりを進めるには「自分たちの力で学校が良くなった。」や「先輩たちの実践を私たちがしっかり受け継ぎ学校をさらに良くしている。」と生徒が感じ，その感じたことを持続させなければなりません。また先輩から後輩へと活動を継続させなければなりません。その活動とは生徒会活動そのものです。一人一人が生徒会

員という意識を持ち生活会活動に参加している、自分も学校をより良くしている一員という自覚を持たせることが大切です。自分も生徒会活動に参加しているという意識を持たせるためには、生徒会活動の末端組織である学級の係活動を活発化させなければなりません。

生徒会活動を柱にした学級活動の活発化のための活動は次の通りです。

- ① 毎月の各部委員会の話し合い
- ② 行事ごとの話し合い（入学式、生徒総会、体育大会、文化発表会など）
- ③ その他行事以外の生徒会活動（クリーンボランティアなど）

さて、学級の話し合い活動の何が開発的生徒指導なのかという疑問があるかもしれませんので、お話しておきます。

開発的生徒指導とは「生徒の良さを伸ばす」ための指導のことを言います。「生徒指導＝教科経営」といわれるように授業の中にも開発的生徒指導があります。本校では生徒指導の3機能を生かした授業の創造を試みています。これは開発的生徒指導視点に立った授業の創造です。また、学級経営においても開発的生徒指導が進められます。例えば、学級の話し合い活動で生徒の小さな意見に教員がちょっと肉付けをして発表させることができればその生徒は自信がつかます。話し合い活動で、司会の生徒に話し合いの方向性を示し、その手順を丁寧に指導しておけばそれがまさしく開発的生徒指導なのです。ですから、開発的生徒指導は、いろいろな場で進めることができるのです。

本校では、各部委員会のための学級での話し合いは、現在帰りの会の時間を活用しています。帰りの会では議題が配られ、係ごとに集まって具体的活動項目や反省点を話し合います。この活動のあり方をより開発的生徒指導の視点で進めることができれば、一人一人の良さを伸ばすことにもつながり、正しいことを正しいと判断し、それを実践する態度を身に付けた生徒を育成することにもなります。ひいては、体力のある学校づくりへとつながるのです。

生徒会活動以外にも学級での活動を活発化させる場面があります。例えば、学年集会や学年行事などです。学年集会には、定期的に行われる学年別朝会や学年合同帰りの会があります。修学旅行では修学旅行実行委員会が発足されますので、ここでも学級での活動が活発化されます。

学期はじめに見られる学級の係活動の場面例

月	良さを引き出し伸ばす場面	
4月	○ 学級開き	・ 総務役員決め、1学期係活動の係決め
	○ 4月学年別朝会	・ 学年別朝会の内容決め、担当者決め
	○ 修学旅行関係	・ 修学旅行実行委員会の委員選出 ・ 修学旅行自主研修計画の実際
	○ 各部委員会	・ 具体的活動項目の話し合い
9月	○ 2学期係決め	・ 総務役員決め、2学期係活動決め
	○ 体育大会関係	・ 選手決め、その他
	○ 定例学年別朝会	・ 学年別朝会の内容決め、担当者決め
	○ 文化発表会関係	・ 文化発表会実行委員選出、発表内容の共通理解
	○ 各部委員会	・ 具体的活動項目の話し合い
※ この他にも、学級における課題や問題点を探る活動を仕組みことができますし、上級生ともなれば、学校全体を俯瞰した課題や問題を論ずる場面も想定できます。		

**開発的生徒指導を
気持ちよく進めるために！**

一人一人の意見に教員が肉付けをしたり、ある生徒の意見を取り上げるために、ある生徒に教員が働きかけたりしながら、一人一人の良さを引き出し伸ばしていくことが大切であり、自分の意見が取り上げられて学級の総意と

なり、その意見が学校全体の方向性になれば、その生徒には大きな自信が芽生えるでしょう。そのような生徒を育てるためには、まず、話し合いをする土壌を整備しなければなりません。4月当初はなかなか意見も出ず、教員も苛立つかもしれませんが最初が肝心です。会議の進め方をしっかり定着させましょう。

学級の話合い活動を活性化させる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	よさの段階と生徒の伸び
[気付いた!] ・話し合いの手順を学ぶ ○ 学級会（話し合い）活動を定着させる。開発的生徒指導を学級会（話し合い）活動進めるためには、学級で解決しなければならない問題を生徒自身が発見したり、発見した問題を解決したりするための課題を整理し、その課題を一つ一つ解決していくプロセスを定着させることが大切です。 ・ 年度当初、学級会（話し合い）活動を通して会議の手順やルールを理解させる。 ・ 議長、副議長、書記、記録の役割分担を理解させ、議事録にも誰がどんな意見を発表したかを記録させる。 ・ 意見の出し方や、グループでの話し合いの仕方などを教える。	○ 教卓に手をついて一部の友だちと会話をしながら事を決定していた司会者も、多くの意見や少数意見を吸い上げながら、より良い話し合い活動の司会ができるようになった。 ○ 先生が意見した内容が建設的な意見ということに何となく気づいた。
[意見を出してみよう!] ・ まずは意見してみる ・ どんな小さな意見でも大切にして討論しなければならないと感じる ○ 定例の各部委員会（生徒会活動）の話し合いは各係で話し合いをした後、学級全体に諮らせる。各係で話し合われたことは学級の総意という意識を付けさせる。 ・ 係活動のグループ別に集まり、司会と記録を立て、話し合いを進めさせる。 ・ 教師は各係のグループを巡回し話し合いの様子や記録を見ながら、助言する。 ・ 各係で話し合った内容を学級全体に提案させる。 ・ 代表が提案しているとき教師は各グループを巡回し、提案した内容に対する意見や質問を投げかける。 ・ 学級全体が理解、納得したところで終了する。	○ 生徒会活動は生徒会本部役員が進めているのではなく生徒全員で支えあっているんだ。 ・ 小集団での司会ができるようになった。 ・ 先生に教えてもらったことを自分の言葉で意見できるようになった。 ・ 係で練った意見を学級全体の場で提案できた。 [できるようになった!] ・ 建設的な意見を投げることができるようになった。 ・ 自分の意見でもみんなの助けがあると学級の総意として学校全体の場に提案できるんだ。



1 特に生徒会活動を中心に取り組みたい「評判の良い学校の3要素」

評判の良い学校とは、生徒が落ち着いている学校であったり、学校全体が良い雰囲気であったりする学校のことを言います。そのような学校にはおよそ次のような特徴があります。①「遅刻する生徒が少ない」、②「清掃活動が行き届いていて学校がきれい」、③「あいさつがよくできる」です。この

3つの要素を備えた学校は私たち教職員からすれば「夢のような学校」「理想的な学校」であるかもしれません。

① 「遅刻する生徒がいない」について

朝、何らかの理由で遅刻する生徒に関してはもちろん遅刻とカウントしないで遅刻調査をしますが、遅刻する生徒がいない学校の特徴としては、登校完了時刻ぎりぎりに登校する生徒もいない、もしくは少ないことです。つまり駆け込み登校がいないのです。学校生活、家庭生活共に基本的生活習慣が定着していることの証といえるでしょう。

② 「清掃活動が行き届いていて学校がきれい」について

以前、熊本市内のある中学校に視察に行った時のことです。その中学校は生徒数800名を越す大規模校です。ちょうど昼食時間の後の掃除時間でした。すべての生徒と言ってよいでしょう。床に膝をつけて雑巾で吹き上げていました。教室や廊下を掃除する生徒に中には埃のたまりやすい隅の方を中心に掃除している生徒もいました。掃除担当箇所は時に決まっている様子もなく気づいた者がその場所を掃除しているという雰囲気です。大規模校となると一人くらいはさぼろうとしている生徒がいてもおかしくないと思うところですが、掃除をしている生徒にもその活動に差がありません。あの子は一生懸命取り組んでいるが、この子は手を抜いているという生徒がいないのです。理想的な学校、夢のような学校と思いませんか。「なぜそんなに清掃活動が盛んなの。」と生徒に聞いてみました。すると答えは次の通りです。「みんながやっているから自分もやっている」「部活動の先生に厳しく言われているから」という答えが返ってきました。この返答からは先生方の指導が行き届いているから生徒が立派にやっているんだと思われますが、生徒の表情や輝いている瞳の奥を覗くと、単純にそうではないような気がします。多くの生徒が、清掃活動はみんながやらなければならないこと、みんなの学校だからきれいにしておかねばならない、私たちの自慢の学校、という意識があったように感じました。どんな方法でそこまで清掃活動が盛んになったかは分かりませんが、少なくとも生徒は掃除をさせられているという意識ではなく、自主的に、意欲的に取り組んでいました。

③ 「あいさつがよくできる」について

今や「あいさつ」については学校上げて取り組んでいる学校もあれば、部活動のマナーアップが注目される中で、あいさつについてはその学校の、またはその部活動の品位が問われる時代になってきています。だからといってあいさつ重視のあいさつ教育ばかりを進めているわけではないでしょうが、評判の良い学校の3要素の中でも最重要視されていないでしょうか。あいさつは人と人とのつながり、コミュニケーションの基本です。生徒のあいさつの仕方もここまでくれば完璧という学校もあります。人とすれ違うときは、例え急いでもいい立ち止まって相手の目を見て笑顔であいさつをする生徒（部活動）がいます。ここまでできればというあいさつの仕方ではないかと思われます。このようなあいさつの仕方は、部活動の指導の中では比較的指導しやすいことかもしれませんが、全校をあげて取り組もうとすれば結構大変なことかもしれません。部活動でできればその延長線上で学校でもできるんじゃないかと思われませんが、なかなかそうはいかないものです。まして、このようなあいさつの仕方が自然にできる生徒を育てるとなるとそれなりの手立てを継続的に行わなければならないでしょう。つまり、「急いでもいい立ち止まって相手の目を見て笑顔であいさつをする。」をさせられているのではなく自分から自然にできているという態度に育てるためには、そうした方がよいという体験や経験をさせることが大切になります。

自分の学校の評判が良いことについて喜ばない者はいないでしょう。どんなに荒れている学校の生徒でも、「君たちの学校は（問題のある学校で）県ナンバーワンよ。」と言ったら不機嫌な顔をするか、「本当ね？」という顔をするものです。悪く言われれば気持ちよくはありません。でも、よく言われれば気分が良くなります。生徒、職員に限らず、保護者、地域にとっても同じことでしょう。ですか

ら、この3要素に関しては、生徒が主体となって評判の良い学校づくりを進める上で、取り組みやすいのではないかと思います、と言っても、今や、この3要素の実践については多くの学校で取り組んでいます。そこで、ここでは、この3要素を生徒が主体となっていくためにはどのような点に着眼させてその気にさせると良いかという場面を提示したいと思います。

遅刻「0」を生徒が意識できる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	生徒の活動や生徒の良さの
[気づく！] 良い学校ってどんな学校か生徒に意見を求める	
○ 他校の遅刻「0」実績を生徒会に伝え、生徒会活動の一環として遅刻「0」運動に取り組むことを促す。生徒会活動で打ち出しても良いが全校生徒一丸となった生活目標とするよう生徒会本部に働きかける。 ※ 遅刻調査に関して、生徒はあくまでも遅刻調査を行うだけにして、遅刻指導は教師が行う。	○ 遅刻はいけないことと理解している生徒が多いのであえて生徒会生活部が遅刻に関する意識調査を実施し、『遅刻「0日」年間〇〇日達成大作戦！』などと銘打ちあいさつ運動と合わせて遅刻調査を行う。 ○ 遅刻が「0人」だったクラスを帰りの会の放送等で全校に知らせる。
[やってみようと思った！] 遅刻しないようにしなければと思う生徒が増える	
○ 部活動単位であいさつ運動を実施したり、参加したりしながら、全体的な生徒の登校時間を早め、朝から活気ある学校の雰囲気づくりをする。 ○ 遅刻しそうな生徒や遅刻した生徒については、生徒に応じて、対処的生徒指導であたったり、カウンセリング的にあたったりする。 ○ 遅刻が全体的に減ってきたり、登校時間帯が早くなってきたりしたことは、必ずほめるようにする。	○ 遅刻「0」を達成しようの機運に後押しされて、これまでは、遅刻ぎりぎりに平然と登校していた生徒が、自転車通学であれば立ち漕ぎをしたり、徒歩通学であれば、走ってきたりする生徒が増えだす。
[できるようになった！] 生徒の努力（良さ）を認め、ほめる	
○ 昨年度の実績と比較しながら、全校朝会（生徒朝会等）で遅刻がなくなったまたは減ったことを生徒会が全体に報告し、そのことについて教職員が賞賛するようにする。 ※ 賞賛の仕方…言葉で褒める、通信物で褒める、外部（PTA や地域等）で褒めたことも生徒に伝える。	○ 自転車の立ち漕ぎや徒歩通学のダッシュがなくなり、全体的な登校時間も早まる。 ○ 自己の生活目標の中に、遅刻をしないや、必ず連絡する等の文言が表れてくるようになる。
遅刻として扱わない生徒について	
※ 事前に遅刻の理由を電話連絡していれば遅刻として扱わない。 ※ 自家用車で送ってもらった生徒でもその運転者が遅刻した理由を告げれば遅刻として扱わない。 ※ 普段から体調の優れないことを理由に遅刻をしている生徒は遅刻にカウントしない。	

腰を入れて雑巾掛けできる生徒を育てる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	生徒の活動や生徒の良さの伸び
[気づく！] 良い学校ってどんな学校か生徒に意見を求める	
○ 清掃活動が盛んな他校の例を知らせる。 良い学校は掃除が行き届いていてきれい だということを考えさせる。 ※ 学級から学校の課題として生徒会本 部に提案させても良いし、生徒会本部と 環境部が案を練り提案させても良い。	○ 清掃活動が行き届いている箇所と行き届いて いない箇所を環境部中心に把握する。画像で全 校生徒に示し、活動の内容と方法を全校で考え る。
[やってみようと思った！] 自分たちの学校をきれいにしようと思った。	
○ これまでの清掃活動のように自在ほう きとモップだけではほこりを取り除くこ とができないことに気づかせる。	○ 床や窓の棧，特に黒板の下や教室等の隅はほう きではなく手を入れないときれいにならない ことに気づき、自分でもやってみようと思った。
○ 校門付近や学校の敷地周辺に目を向け させる。	○ コンクリートやアスファルトの上にあがって いる砂利や砂を掃いた。
[できるようになった！] 生徒の努力（良さ）を認め、ほめる	
○ 教師も一緒に掃除する。	○ 腰を入れて固く絞った雑巾で床を拭きあげ た。

相手の目を見て元気にあいさつできる生徒を育てる開発的生徒指導の一例

教師の働きかけと支援	生徒の活動や生徒の良さの伸び
[気づく！] 良い学校ってどんな学校か生徒に意見を求める	
○ 来校者や地域からの評判として、よくあ いさつができるという言葉を目にするこ とを知らせる。	○ 部活動でも学校生活でもあいさつは基本中の 基本であることは知っている。そのことが、自 分の中ではっきりとした。
○ 生徒会の通年の活動としてあいさつ運 動を位置づけ活動の一部として、地域人や 企業人に講和を依頼する。朝会等の短時間 を利用して話をしてもらう。	○ 社会でもあいさつは重要視されていることに 気づく。どんなあいさつの仕方が良い印象を抱 かせるか考える。
[やってみようと思った！] 思った。	
○ 部活動単位であいさつ運動に取り組む。 ○ 朝のあいさつ運動を活発にする。生徒会 本部役員を中心に、学級別に参加する。 ※ 学級では生活委員等から発案、討議さ せ、学級の取り組みとしてあいさつ運動 等には参加させる。	○ 学校の前を通る朝の通勤者などにあいさつを することができるようになる。 ○ 元気に声を出して「おはようございます。」と いえるようになった。
[できるようになった！] 生徒の努力（良さ）を認め、ほめる	
○ あいさつ運動週間等を設け、自由に参加 できる雰囲気を生徒とともにつくる。 ○ 教職員がすがすがしいあいさつをして みせる。	○ 今日は朝のあいさつ運動に参加してみよう！

個を育てる開発的部活動指導！

～学級経営力＝教科経営力＝部活動指導力～

部活動に出ていますか。学級の仕事や他の用事を理由に部活動に出ていないときが多いなんてことはありませんよね。試合で負けたら、心の底から悔しがっていますか、生徒も先生も。

顧問が一週間部活動指導にでないと部活動、どうなるか分かりますか。壊れますね。練習が遊びになっているか、内部紛争が始まっているかどうかでしょう。生徒にとって部活動は「がんばりたい！」の第一位。生徒にとって部活動は自分をいかせる大切な場なのです。



開発的生徒指導で行こう！

聞くとところによるとある学校には授業には出席しないが放課後部活動の時間になると登校し、他の生徒と同じように練習に励む生徒がいるそうです。それが良いとか悪いとかという問題ではなくて、その生徒はそれほど部活動が好きで取り組んでいるというその生徒の実態です。小学6年生の「中学校への希望や期待」というアンケートによると、部活動への期待は常時ベスト3にランクインしています。つまり中学校の学校づくりにおいて部活動経営は切っても切り離せないもののなのです。

しかし、部活動も指導が熱くなりすぎて、生徒が学級より部活動を優先させなければならないと考えるようになったり、学業より部活動を優先させてしまうようになったりしてはいけません。

部活動はその活動を通して感謝の心を育んだり、素直に物事を受け止めることができるような心を育んだりすることを柱にしながら、部活動で培った仲間を大切にする心を学級の仲間に反映したり、忍耐力、精神力を学業面に反映したりすることができる生徒を育成することがねらいなのです。



以前の（どこまでが以前かは分かりませんが）部活動指導は、技術をしっかり指導していれば強くもなり規範意識も育ち、それだけでも信頼関係は成り立っていたのではないのでしょうか（ちょっと言いすぎでしょうか？）。しかし、これからの部活動は技術指導だけでは成り立ちません。技術指導はもちろんのこと、生徒とのコミュニケーション、規範意識の醸成も目指さなくてはなりません。一人一人に合ったきめ細かな指導（生活面、学習面含めて）も欠かせないのが現実です。

そのような部活動経営は日々の練習の関わりの中から生まれます。繁雑な毎日の業務の中でどうすれば部活動経営ができるの（？）って言いたくもなりますが、そこは、情熱と気合いと理論で子どもたちを迷わせないようにしたいものです。「部活動で開発的生徒指導…」となると、ちょっと結びつけづらいですが、要は技術指導以外の指導が今の部活指導にはいかに大切かを感じ実践することを考えていただければよいかと思います。

結局のところ部活動経営も生徒の成長を願う教員の熱さと、その競技に対する理解が何よりも大切ということになります。もちろん、理解とは理論を理解し、理解したことを目の前の生徒の実態に応じてどう分析しどこまでのレベルまで生徒を高めていこうと熱く考え、実践しようとしているか、ということです。つまり、学級経営や教科経営と同じことになりますね。

個を育てる開発的部活動指導の一例

部活動顧問のこんな思いが個を育てる

〔暑い夏～8月〕新チーム発足！「一緒に勝とう！」

- 顧問の方針、夢を語り同じ目標に向かって努力することを確認しよう！
 - ・ 新チームはこの日を待ちに待っていました。もちろん、先輩の時代が終わり一緒に練習や試合をできなくなった悲しみはありますが、先輩たちが果たせ得なかった夢や希望を受け継いで自分たちが先輩の分まで頑張っているところでしょう。新チームの可能性、課題を分かりやすく理解させることが大切です。
- 暑い夏、この暑さに負けないでがんばろう！
 - ・ 夏の終わりに暑い夏をみんなで一緒に乗り切ったと思うことができるような夏休みの練習にすることが大切です。乗り切るためには、自分に負けない、仲間に元気を与えることを実感させなければなりません。きつくて諦めたくもなるが、仲間の励ましの声や勇気付けの声が自分を強くさせたことを感じることができるよう声を出させましょう。
- 新チーム、一人一人がみんなに気を配ろう！
 - ・ 新チーム、1つの目標に向かって頑張っているときにみんながその雰囲気についてきているか。出遅れている仲間がいないか常にアンテナを張っておきましょう。

〔10月〕各種大会（新人戦）「これまでの練習の成果を発揮しよう！」

- 「勝てば喜び、負ければ悔しさ」をあらわにしよう！
 - ・ （負けたことを前提にはしてはいけません）負けたときはまずその悔しさを前面に出して顧問の気持ちを伝えましょう。負けたことをあまり悔しいと思わない生徒も中にはいます。また次があるからいいやという気持ちでいる生徒もいます。一つ一つの大会や試合を通して強い精神力を育てていきます。
- 大会の成績を分析して、次の目標をみんなで確認しよう！
 - ・ もちろん優勝すれば素直に賞賛しますがそこに満足させてはいけません。もっと強くならなければいけないと思わせなければいけません。優勝しても完璧なゲームだったと言わずに課題を見つけてあげます。それが今後の練習につながっていきます。



〔冬〕寒くつらい冬を越えればやがて春が来る、春には大輪の花を咲かせよう！

すべての部活動においてこのような思いで指導するというものではありませんし、もちろん、顧問はその部活動に対する知識と経験を基に部活動運営をしていますので、「そこは違うんじゃない！」と言われればそこまでです。しかし、部活動を経営するときにはどの顧問にも共通していることは、「強くしてあげたい!」、「部活動を通して人間的に成長させたい!」ということです。

これは学級経営や教科経営と同じことなのです。学級であれば、この学級を通して仲間の大切さを感じたり、様々な関わりの中で大きく成長させたい、成績を向上させたいと願ったりしながら学級経営を進めます。教科では自分が受け持つ教科の面白さ、楽しさを知ってもらいたい、分かる、できるようにしてあげたいという願いから教材研究をします。どうでしょう。部活動経営も同じでしょう。

さて、荒れていた学校が部活動で再生した話を多く聞きます。もちろん、開発的生徒指導の趣旨には沿っていませんが、簡単に見捨てられない話です。広義において「部活動で学校再生」を捉えると、荒れている学校で開発的生徒指導を進めるために、まず部活動を整備し、顧問の指導力で生徒会活動や学級学年の活動を作り上げた、という方法も考えられます。つまり、中学校において学校づくりを進めていく上で、部活動の「力」はかなり重要といえます。ですから、部活動からも生徒を育てていくという視点に立つことが大切です。

※ 部活動保護者会との連携について

昨今部活動の活動自体が多岐に渡っています。遠方への練習試合や合宿はいまやどの部活動も行われているようです。また、外部指導者を招聘してきめ細かな指導をしている部活動も少なくありません。そうなってくると顧問だけでは到底対応できなくなります。そこで、保護者会との連携が大変重要となってきます。遠征試合での送迎や会計など多々お願いすることがあります。もちろんその部活動の内容にもよりますが、保護者会とは丁寧に関わらなければなりません。そのためにも、部活動の生徒との関わりを大切にしなければなりません。生徒が家で、「先生の言いよつこと、いっちょんわからん。」や「先生、仕事の忙しかて言うていっちょん出てきんさんもん。」と言ってるようでは先行き不安です。生徒が離れると保護者も離れます。生徒と保護者が離れたら次は批判非難が始まります。つまり、生徒も保護者もそのこと（生徒に言ってることやもろもろの状況など）について理解、納得していなければ関係は悪い方向へ進みます。

学校の行事として部活動保護者会が5月に実施されますが、その日に出席できない保護者もありますし、たった1回だけの保護者会で理解させるのは至難の技です。できるだけ、保護者会の活動が活発になるよう働きかけかけることです。そのためには練習試合等でのミーティングでの話を周囲で聞かせたり、懇親会を持って部活動での子どもの様子を語ったりすることによって気を向けさせていきましょう。そのような繋がりを大切にしていけば、おのずと学校の活動に目を向ける保護者も増えてくるでしょう。

**業務が忙しいとは思いますが
部活動の開始の時、
生徒が集中力がなくなる練習メニュー、
部活動の終了の時は
必ず活動場所に行きましょう！**



学校行事の企画は生徒が活躍する場を前提に！

先生主体で事を進めるのは意外と楽なのです。でもそこに生徒の活動が入ってくると大変なのです。でもそれが開発的生徒指導。活躍の場はどこにでもあふれています。子どもに応じて多くの場を設定しましょう。それが手立てです。手立てを講じれば、生徒はその良さを発揮します。つまり伸びます。

誰だって人から褒められたら気持ちのいいものです。「上手だったよ。」
「うまくできたね。」って言われたら嬉しいでしょう。学校ってもともと
そんな言葉が飛び交う場ではなかったのかなって思います。



開発的生徒指導で行こう！

1 ちょっと工夫すれば、生徒の活躍の場はどれだけでもできる

普段当たり前のように行っている全校朝会や学年集会、その他の行事や事前指導ですが、その多くは教員主体で進めていませんか。確かに入学式や卒業式のように教員主体で進めなければいけない行事等もあります。しかし、ちょっと工夫すれば生徒主体で進めることができる行事等もあります。そのちょっとした工夫で生徒に出番ができる開発的生徒指導なのです。例えば、「夏季休業中の指導について」は終業式の日には生徒指導の先生から全校生徒に向けて話があります。このようなスタイルは予防的生徒指導と言えるでしょう。では、この「夏季休業中の指導について」を開発的生徒指導で進めるとどうなるのでしょうか。

- ① 生徒による司会進行で進める（生徒会生活部）
- ② 事前に話し合っておいた夏季休業中の生活において注意することを生徒の代表が発表する
- ③ 切実感を持たせるため、児童生徒の水難事故やその他事件等に関する昨年度の新聞記事などをまとめたプレゼンをする
- ④ 指導助言を生徒指導担当の先生にお願いする

①に関して…「司会進行も出番のうち」

司会進行は生徒会本部役員（生活部）でも良いですが、生徒会の生徒は出番が数多くありますので、一般の生徒にさせます。

会の開会にあたり、生徒会本部役員が本日の司会者の紹介をします。

司会とは別に、開会の言葉や終わりの言葉を仕組むだけでも良いかと思います。

②について…「夏季休業中の生活」について自分たちで話し合わせる事が大切

企画は大変ですが、簡単に言うと、佐賀市生徒指導協議会や学校の生徒指導部から出ている「夏季休業中の生活」や「心得」がありますが、その内容を自分たちで考えるということです。

夏季休業中の生活作成実行委員会と名づけて、1～3年の中から実行委員を募ってもいいですね。

③について…「切実感を持たせる」

これについては、生徒の出番優先的はニュアンスもありますが、建前上水難事故やその他事件・事故に関する予防的生徒指導の視点から過去の事例を持ち出すと効果的でしょう。

④について…「生徒指導担当の先生からの指導助言」

まずは、ここで褒めた後、本来の業務を遂行しましょう。この後、校長先生からもお褒めの一言があれば、より開発的生徒指導と言えるでしょう。

という風に進めていくと、開発的生徒指導で取り組んだ終業式における事前指導と言えます。

また、このような手立てを取ることによって自分たちの安全は自分たちで守るという意識の芽生えにも大きく影響するでしょう。普段から意識しながら危険な箇所や事件事故のニュースにも自然と目を向けるようになるかもしれませんね。

2 年間を通した学年集会にみる開発的生徒指導

何度も言うようですが、生徒には学習の場を通して目立つこと、学習の場を通して褒められることの大切さを感じさせなければなりません。そのような手立てが定着すると、生徒はおのずと落ち着いてきます。学習の場で目立つことが大切であり、すばらしい事という雰囲気が定着していれば、たとえ問題行動系の生徒がいたとしても、そう大きく傾いたり崩れたりすることはありません。その雰囲気づくりは基本的には学年で取り組んでいかなければなりません。やはり、子どもたちは同級生を意識します。そこで、そのような雰囲気づくりの格好の場として学年集会があります。

開発的生徒指導の視点で年間を通した学年集会を組み立てる一例

4月	1週目	○ 学年紹介 ・ 単なる自己紹介で終わらず、例えば各自がテロップを持ち、「今年の私の方針や目標を1文字で表しますと・・・」などと企画する。大切なことはそのやり方（方法）を生徒に見せることです。 ※ ここではまだ開発的ではありません。 ※ 学年集会の進め方を話しておく。持ちまわしの順序や議事録（記録帳）の書き方など。
	2週目以降	○ 一学期総務の紹介 ・ テロップを活用し「施政方針演説」風に行わせる。 ○ 「友達づくり」エンカウンター ・ 学年全体で簡単なゲームをしても良い。 ○ 旅行委員の紹介 ・ 5月に修学旅行を実施していれば、旅行委員の紹介をする。単に紹介では面白くないので、どんな旅行にしたいか、や、どんなところを頑張りたいかなどを旅行委員に話をさせる。 ○ 連休の過ごし方を考えよう ・ 学習に対する意識付けとして連休の過ごし方を提案する。発表する学級で事前に取りまとめておく。内容は、自分たちで考えたことや先生と一緒に考えたこと、または生徒指導の先生やその他の先生から取材したことなど。 ○ 礼法を学ぼう ・ 話の聞き方（態度）はどのような態度が良いのか、聞き手と話し手の気持ちになって考えさせる。

学年集会で実施するエンカウンターでは、仲良くなることを目的としているからといって、意味のないクイズ大会やイントロ当てクイズなどで進めないようにしましょう。目的を持つことが大切です。例えば、あの子は何組の子だとか、この子のいいところはこんなところとか、特技はこんなことだとかを知って生かせることができるような活動にしましょう。



時 期		内 容
5 月	上旬	○ 旅行委員からの途中経過報告や提案 ・ 各クラスの進捗状況を各クラスの旅行委員が報告する。 ・ バスや宿泊先での出しものの提案 ○ 旅行委員会の解散式 ・ 委員に感想等を述べさせる。 ○ 身だしなみについて考える ・ 冬服から合服への移行期間に入る，この時に合服の着こなしについて生徒が提案する。
	下旬	○ 修学旅行の思い出，反省
6 月	上旬	○ 梅雨時の休み時間の過ごし方の提案 ・ 各部委員会では，この時期室内の過ごし方が議題としてあがることが多いので，事前に学年で調べたり案を考えたりしておくのも良い。
	下旬	○ 「学期末テストへの取り組み方提案」や「テスト前一週間，帰宅後夕食までの過ごし方提案」などの提案 ・ 上級生や先生から意見や情報を収集して発表する。
7 月		○ 礼法指導 ・ 合服から夏服に移行します。夏服において注意しなければならないことや留意しなければならないことを提案します。 ○ 部活動結団式 ・ 生徒会主催の激励会や結団式も実施されるが各学年で事前に行ってもよい。 ○ 体育大会実行委員の紹介 ・ 抱負を語る。
9 月	上旬	○ 体育大会に向けて ・ 各学級の体育委員から意気込みを語る。 ○ 新総務の所信表明演説
	中下旬	○ 各学級の体育委員による体育大会の反省 ○ 時事を取り扱って全体でそのことについて意見を出し合う。 ○ 学年スタッフによる二学期の目標紹介
10 月		○ 中間考査に向けて ・ テスト勉強のポイント発表（事前に取材をしておく） ○ 文化発表会実行委員の紹介 ・ 抱負を述べる ○ 文化発表会に向けた取り組みの各学級の進捗状況発表会 ・ 出し物，合唱コンクールの指揮者，伴奏者の紹介，クラスのアピールなど ○ 新人戦激励式（2年生）

時 期		内 容
11 月		○ 11 月以降の学校生活のあり方 ・ 大きな行事が終わったので、学習に集中できるような学級の雰囲気高めたい。 ○ 時事問題を取り上げて発表する ○ 3 年生の受験までの日程を知る ・ 3 年生の状態を知り、後輩としてどう支えるか、どう関わるかなどを共通理解する。
12 月		○ 冬季休業中の生活 ○ 一年間の反省 ○ 3 学期にやらなければならないこと！
1 月		○ 3 学期の抱負
2 月		○ 今年度の振り返りと次年度への抱負



3 文化発表会に見る開発的生徒指導の考え方

文化発表会は、修学旅行、体育大会に肩を並べて、三大学校行事と言えます。生徒にとってもそのモチベーションと取り組みの高まりは他の学校行事と比較できないほどといっても過言ではないでしょう。「朝 7 時学校集合でがんばろう！練習をしよう！」とひとたび声をかければいやな顔ひとつせず翌朝は集合します。先生が来ていなくても自分たちで練習が始まっていたりします。だからこそ、生徒たちには本物を感じさせ、本物を製作させ、本当の喜びを感じさせたいものです。

ア 展示物は商業ベースか芸術ベース

文化発表会では学級展示や学年展示、または選択教科で取り組んだことを展示したり、発表したりします。展示物等を制作するときに、生徒任せでは良いものはできません。生徒が作ったものだからといって生徒の意識の向くままに制作させると、制作した本人やグループは多少の達成感や成成感味はありますが、周囲の目は概ね「こんなもの？」や「そのくらいのもの！」といった感想しか持ちません。つまり、創造性や作製する技術はそこまで身に付いていないが、それを評価する感性は持っている、が中学生だったりします。だからこそ、より良いもの、本物に近いものを制作させることが大切なのです。

芸術ベースとは、客が立ち止まってじっくり見入るような展示物を制作することです。客はそう多くなくともかまわないと思います。その展示物の良さ、すばらしさを感じ、感動できる生徒がいればそれで良いのではないかと思います。芸術とはそういうものでしょう。

商業ベースとは、客がなんぼ入った！の世界です。「入場料を〇〇円にしたら、収益は〇〇円になったんじゃない！」という話題になれば良いでしょう。そこには、事前の広告の仕方や当日の呼び込みの仕方も関わってきます。つまり営業努力がその成果の中に入ってきますね。

文化発表会の展示物等にはこのような考え方を取り入れなければ、良いものはできないのではないのでしょうか。生徒たちはやがて社会にでます。その大半は企業人です。つまり商売人です。人に興味関心を持たせるためにはどうしたらよいか、この商品で利益を上げるためにはどんな工夫が必要か、このような捉え方をさせながら文化発表会に取り組むことが大切なのではないかと思います。

文化発表会が先生の手の入らないもので出来の良いものがなかったとらないようにしたいものです。



例えば、畳二畳大の発泡スチロールに爪楊枝アートを描く。その爪楊枝アートは、右から見るのと左から見るのでは色合いや絵の表情が変わるもの、です。その爪楊枝アートはイチローのバッティングフォームでした。もう1つ紹介しますね。エッシャーの絵を階段や、廊下の端から端まで描いたものがありました。これって芸術ベースなのです。



商業ベースって極めれば芸術ベースになるんですよね。以前、こんな学級展示を見ました。「ブラックライトによるライオンキング紙芝居」です。紙芝居といっても、これも畳二畳大ありましたね。5分くらいの公演時間でしたが、行列ができていましたよ。あと、「先生たちの今昔写真館」もよかったです。その写真館も単に写真を展示するのではなく、10センチくらいの穴をのぞくと先生の幼いころ、小学生だったころ、学生だったころの写真とその時代の背景が穴の中に広がるように展示してありました。商業ベースながらもはや芸術ベースでしたね。これもまた、行列ができていました。



2 修学旅行に見る開発的生徒指導の考え方

修学旅行は一年間の中で一番楽しみにしている行事かもしれません（特に泊を伴う修学旅行、金泉中の場合は3年生）。修学旅行に関しては、現在多くの学校で旅行委員会を立ち上げ、生徒主体の学習として修学旅行の準備を進めている学校が多いかと思います。

旅行委員会の進め方にもいろいろあり、その程度に応じて教員の負担は大きく異なりますが、大切なことは旅行委員を通してどれだけリーダー性を育み、良さを伸ばすかということになります。

開発的生徒指導を視点として修学旅行実行委員会設立の考え方

1 修学旅行委員会 担当教師の選出	1 担当は原則として副担任から選出するが、活動時は学年スタッフ全員が旅行委員会に出席する。
2 修学旅行実行委員会選出	2 各クラスから旅行委員を募る。 ○ 委員会の定員はない。 ○ 選出基準 ・ 部活動をしていない生徒 ・ 普段、目立たない生徒 ・ 問題行動系の生徒 ・ リーダーとして養成したい生徒
3 実行委員会 会活動開始	3 活動時間は、昼休み。弁当持込で委員会を開催する。 ○ 委員長、副委員長を選出する。
※ 年度初めから活動開始する修学旅行実行委員会は、学習場面で目立つことが大切なことと生徒に浸透させる大切な活動です。	
※ 修学旅行関係を学級で進めるときは、基本的に学級の旅行委員が中心となって進めます。そのため、旅行委員会ではそこまで指導をしておかなければなりません。	

「何と言ったらいいの?!」生徒とのあんな場面、こんな場面 Q&A

～私ならこんな風に言葉かけします～

厳しく叱ることも必要ですが、少なくとも強く怒鳴って、はい終わり、の指導の時代ではありませんね。厳しく叱っても、その後の指導もしていかなければなりません。



1 遅刻指導「何と言ったらいいの?!」Q&A

- 登校完了時刻（校門）の8時10分よりちょっと遅れて登校してきた。走っては来なかった・・・

遅刻指導にはいろいろな場面があります。不登校系の生徒がまれに登校してきた場面や、あまり遅刻しない生徒だが今日は遅刻してきた、またはほぼ毎日遅刻ぎりぎりの時間に走ってきているが、今日は走っても来ないで遅刻した生徒、例えれば切がありません。ここでは、ごく一般的な遅刻の生徒に対する言葉のかけ方を記します。ここで紹介する言葉かけは、頭ごなしに叱らない!です。

教員：「どうした?遅刻だけ何かあったのか。」

生徒：「家を出るのが遅くなりました。」

教員：「いつもと何か違うことでもあったらそれはそれで仕方ないが、朝の時間は余裕を持って過ごさなければなりませんよ。」

甘すぎるのではと思いますが、もちろんこの言葉かけの中には、厳しさも含まれています。大切なことは生徒の実態に配慮しながら、理解、納得する言葉かけをすることです。



- 登校完了時刻よりめずらしく遅刻してきた・・・

教員：「何かあったの?遅刻だけど。」

生徒：「いいえ」

教員：「朝、具合が悪かったり調子が悪かったりして遅刻しそうになったら学校に連絡しておけば校門の遅刻指導の対象にはならないんだよ。でも具合も調子も悪くなくて遅刻したのであればそれはいけないことですね。登校中の周囲の状況を見て分かると思いますよ。自分が遅刻しそうかしそうでないか。遅刻しそうであれば、走ったり、自転車は立ちこぎしたりしなければいけないよ。頑張って来て遅刻したのであればそれはそれで『がんばったけど、遅刻したんだね。』と頑張りを尊重したくなるでしょう。どうせ、間に合わないからと思っはいけませんよ。相手に与える印象は社会の中でもとても大切なことなのです。でもいつもそんな調子だったら周囲は、だらしがないと思ってしまうでしょう。だから遅刻はいけないことなのです。時間を守ることは社会において一番大切なことです。」と諭す。

2 毎日の係活動が定着しない「何ていったらいいの？」Q&A

健康観察簿、欠席黒板、日直日誌、教科連絡、牛乳パック捨て・・・これら係の仕事は学級経営するうえで確実に定着させたいものです。定着しない場合は何回も何回も語りましょう。

● 健康観察簿を1時間目の休み時間までに出していない・・・

「健康観察簿は、保健室の先生が全校生徒の健康状態を把握するためにあるのですよ。健康か風邪をひいていないか、人にうつる病気にかかっているかなど早く把握して生徒が大事に至らないように注意を払うため、対応するために見るものだからとても大切なものなのです。そんなこととは知らないで仕事していたのかもしれませんが、今後は自覚して頑張ってください。」

● 欠席黒板の記入がされていない・・・

「担任の先生が朝の会にどうしてもいけない場合や、他の先生が欠席状況を確認したいときに欠席黒板を見ればすぐ確認できますよね。家庭から欠席連絡が来いても折り返し電話連絡しなければならない場合もあります。登校中に事故にあった生徒がいて家庭も知らない、学校も知らないでは困りますね。だからとても大切な情報が記載されているものなのです。大切な仕事という気持ちで今後は取り組んでくださいね。」

● 教科連絡ができていない・・・

「急に次（明日）の授業の変更がある場合があります。そんなときに教科連絡ができていなかったら、みんなが混乱しますね。クラスみんなが安心して授業を受けることができるようにするためにも教科連絡はとても大切なことなのです。また、背面黒板の教科連絡版にはよく、三点セットとかいつも通りと書かれています。これでは教科連絡になりませんね。教科連絡とは、明日の教科の学習内容や場所等を連絡するものなのです。しっかり記入しましょうね。」

● 牛乳パックが捨てられていない・・・

「牛乳の業者の方が午後、パックを回収しに来られます。だから、昼休みに捨てておかないといけないのですよ。また、教室に牛乳パックの殻があると不衛生でしょう。教室環境的にも良くないことです。毎日昼休みに捨てましょう。」

● 移動教室時に戸締りをしていない・・・

「教室にはみんなの大切な道具類がたくさんあります。学校の中にはそれにいたずらをしたり勝手にちょっと拝借したりする人がいると思いたくないですが、現実にはいますね。もしかしたら外部からの侵入者かもしれませんね。そのような行為から自分たちの大切な道具を守る手段として最低施錠があるのです。移動教室時は必ず施錠をしてくださいね。」

● 下校時の戸締りをしていない・・・

「自分の家も留守にするときは戸締りするでしょう。それと同じですよ。それから学校全体の戸締りもするのですよ。それは、あなた方の大切な学習環境を守るためなのです。戸締りをするときに、廊下の窓が開いていたり、教室のベランダ側が開いていたりしていたのでは、戸締りも大変です。想像できますか。みんなが戸締りをしっかりやってくれるととても助かります。」



3 昼食指導マナーを正したい「何ていったらいいの？」Q&A

昼食指導は学校全体や学年で指導したほうが良いと思いますが、次のようなマナーの悪い生徒については「断じて許さん！」の姿勢で臨まなければいけませんね。

- たち歩いて昼食をとる ○ 床に座って昼食をとる ○ 机に腰掛けて昼食をとる
- 卑しい行為（同意なしに他人のおかずを捕る）

● 生徒が立ち歩いたり、床に座ったりして食事をしていた・・・

「そういうのはしたくない食事のとり方をするものではありません。自宅でそんな食事の仕方をしていきますか。そんな食事の仕方を教わったのですか。」

友達のおかずをとったり交換しようとしていたりするとき、あまりにも品のない行為であれば注意したほうが良いでしょう。また、「いじめが起こっていないか。」と疑うことも大切です。



4 昼休みの職員室で食事の先生に近寄ってきた「何ていったらいいの？」Q&A

用もないのに、職員室をうろうろさせない（涼んだり、暖まったりしている生徒）。そのような生徒がいれば気づいた職員で声をかけ、優しく退室させる。ただし、教育的配慮を有する生徒もいるので、この件については難しいですね。ここでは昼食をとっている職員に訳もなく話しかけてくる生徒に対して躰の視点からどのように声をかけるかを記しておきます。

● 急用の場合・・・

「急用ですか。」と聞き、緊急のときはその用件を済ませた後にどのような対応が適切かを指導する。例えば、「急用の場合は、『食事中失礼します。』と断ってから用件を聞いていただくようにください。」と指導します。「用件が終わったら、『食事中ありがとうございました。』や『食事中大変失礼しました。』と言いましょう。」と指導します。

● 用事がたいしたことのない場合・・・

「自分の判断でかまいませんが、先生の食事が終わってからでもよいという用件であれば、先生の食事が終わったのを見はからってから再度来なさい。」

間違っても、教師が昼食をとりながら、しかも口をもぐもぐさせて生徒の対応をしてはいけませんよね。少なくとも箸をおいて口の中ものを飲み込んでから話をしましょう。



5 腰パン、シャツだし、ミニスカート身だしなみの指導「何ていったらいいの？」Q&A

日々気になる中学生の制服の着こなし。男子の腰パン、シャツだし、女子のミニスカート、第1ボタンはずし等はどこの学校でもその指導の仕方に頭を痛めているのではないのでしょうか。服装指導ではもはやそんな指導の仕方では通用しない、という場面があるかと思います。しかし、身だしなみの指導は怠ると生徒は「言われないからいいんだ。」と受け取り、いけないという意識がなくなっていくます。つまり、生徒が正そうが正すまいが常に指導をしていなければならないのです。現に1年生入学当初は服装についてそこまでひどいという感はないのではないのでしょうか。しかし、上級生になるにしたがって身だしなみに指導が必要になってきます。

● 下級生の場合・・・

「あなただけが服装に関するルールを守らなかったら他の人はどんなことを感じるでしょうか。きっと不快に思うでしょう。みんなが学校生活の努力目標として気をつけて頑張っているときに一人だけそのような格好をしているとみんないやに思うでしょう。そして、何よりもあなたへの周囲の信用がなくなってしまうでしょう。」

● 上級生の場合・・・

「上級生として下級生の模範とならなければならないのにそれではいけないでしょう。」

「体験入学を前にそのような身だしなみではいけませんね。体験入学当日に自分ではきちんとしようとしてもなかなかできませんよ。今からやってないといけませんよ。」

「もし、学校内の生活と自分の進路が別物として考えているのであれば、それはいけませんね。そんな卑怯な考え方をしてはいけません。自分だけよければ良いと言う自己中心的な考えはいけません。」

「3年生ともなると、校外へ出かけることも多くなります。あなたは〇〇中学校の看板を背負って出かけているのですよ。つまり、一人の評判が全体の評判になるのです。学校の評価があなた一人の振る舞いで決まってしまうのですよ。」

身だしなみの指導に限らずいわゆる生徒指導に関する指導は、ついつい最後の切り札を使ってしまうようになるものです。『そんなことをしていたら高校もだめになるぞ。』と、ですね。でもその切り札は使うものではありませんよね。中学1年生や2年生はまだまだ進路実現は現実的ではありませんし、少なくとも進路を駆け引きの材料にするのはちょっとずるいのではないのでしょうか。つまり、指導ですので、そのことを正す心を育てたり正させたりすることが指導なのではないかと思います。身だしなみの指導が必要であれば、身だしなみを正すことの大切さ、人との関わりなど、そのような視点から育てる、正させる指導をしなければいけませんよね。最後の切り札は最後に使うものです。

例えば、明日に控えた体験入学を前に正すことができていない場合や、目前に控えた入試で髪を染めてしまった場合は、『そんな格好で行ったらチェックされて試験受ける前に不合格になってしまうぞ。』と言わなければいけません。



危機管理・対応と開発的生徒指導

世間を揺るがす重大な事件や事故に学校が関わったとき、仮に当事者が在校生にいたとすればその当事者やその周囲の者、または関わりのない在校生に対してどのような生徒指導を進めていきますか。「念には念を」で丁寧な生徒指導を進めなければいけません。生徒一人一人に最大限の配慮を施さなくてはなりません。

マスコミに取り上げられるような大きな犯罪や事件・事故に我が校の生徒が関与したり被害を受けたりすることは、そう簡単にはありません。しかし、いつ自分の在籍する学校で起こるかもしれません。そこで開発的生徒指導を次のように捉えてはどうでしょうか。



学校は本来生徒にとって守られた安心して生活できる範囲であって、そこで生活する生徒は、外部（主に社会）からの刺激によって不安定になり生徒が本来の良さを失ってしまうようなことがあってはならないところなのです。しかし、下記のような事件が起こると、当事者や学校関係者（設置者や監督庁または当該校に従事する職員等）だけでなく、その被害や影響は生徒やその家庭にまで及びます。これは起こらないように心がけても起こってしまうものです。そのような時の学校の危機管理・対応はいわゆる生徒指導を中心として進めていくわけですが、その視点を次のように考えるのです。「生徒が本来の良さを失うことなく学校全体を不安色から守っていくもの」という視点で進めればそれは開発的生徒指導の視点と言えるのではないのでしょうか。

■ 危機管理・対応の鉄則～事前の備えを万全に～

危機管理の・対応の鉄則は「悲観的に準備し、楽観的に対処すること」と言われます。さいあくの事態を想定した事前準備に怠りのないようにしておきたいものです。

① 教職員の危機管理・対応意識を高める

荒廃しを克服した学校がしばらくは安泰だったが、数年後また荒廃してしまったという話はよく耳にします。

「荒廃していた当時は休み時間も校舎内巡回をよくしていた。壁や天井が壊れればすぐに修理していた。しかし、学校が平和だったときは、同じように壁や天井が壊れていても『このくらいはいいや!』という気持ちになっていた。」という述懐は、まさに「喉もと過ぎれば熱さ忘れる」状態ですね。「蟻の穴から堤も崩れる」といいます。新聞等で報道される上のような事例は必ず自分たちの学校でも起こりうるものとして共通意識を持つようにしたいものです。

生徒指導協議会等の研修会では「インシデントプロセス法」等で上のような事例研究をすることが大切です。



話題提供者が何かインシデント（指導上の問題、悩んでいること、解決したい事象・行動 など）を提案し、参加者がそのインシデントにどう対応するのかを考え、話題提供者に提案する、というものである。

② マニュアルの共通理解を図る

危機管理・対応のマニュアルはいざというときの行動基準を示すものです。慌てふためいて右往左往することのないよう全職員で熟知しておく必要があります。マニュアルは完成品よりも作成の途中が重要です。不測の事態を想定し、それに対する実際の動き、役割分担、留意点などを話し合う中で実際に問題が起こったときの臨機応変な判断力や行動力を身に付けることが期待されます。

「つくりっぱなし」とせず、時機に応じて検討し、訂正箇所を明らかにするとともに単に技術論としてではなく、その延長線上にある生徒指導の心を確認することが重要です。これが、「マニュアルに血を通わせておく」ことなのです。

③ 緊急備品等を準備しておく

防災用品を参考にしてそれぞれの問題別に有用と思われるものを準備しておきます。例えば、校外の問題に対処する場合は、学区の詳細な地図や生徒名簿、連絡用の携帯電話、懐中電灯、さまざまな場面を想定したものを準備しておくとう便利です。

④ 情報収集・活用に努める

学区内で起こった痴漢事案の情報から下校指導やパトロールによって生徒の被害を防いだ例があります。このように、的確な情報を入手することは事件の未然防止の要諦です。また、一人一人の生徒について理解を深め、問題の兆候を早期に捉え、その未然防止に努めることが大切です。特に、生徒の健康に関すること、例えば、心臓疾患、アレルギー体質等、生命に関わるような健康状態についての情報は全教職員が情報を共有し、実際の指導に生かしていかなければなりません。

⑤ 法的知識、保護者の意識等に精通する

生徒指導に関わる通知等を熟読するなどしてそれぞれの問題についての一般的理解を深め、法的な知識等を身に付けることにより、有効な情報収集と正確な分析のために役立つだけでなく、実際の対応でも自信を持った行動が取れるようになります。

社会の動きや保護者の意識を知っておくことも重要です。教育情報が大量に伝達され、保護者の人権意識を深まるにつれて、学校への批判も増えてきました。また、『いじめ撃退マニュアル』や『暴力教員を訴えろ！』等のように学校への対処法を詳細に説明した書籍も散見されます。このような動向に絶えず目を向けておきたいものです。



⑥ 日常の教育活動に誠意を持って取り組む

生徒や保護者の信頼を得ることは、いざというときに大きな力となります。保護者に「あんなに一生懸命やってくれているのだから。」という気持ちを持ってもらえれば鬼に金棒です。日ごろから情熱を持って教育に取り組む姿勢や事故防止のたゆまぬ努力は問題発生時に必ず有効です。



⑦ 教育活動の記録を残す

指導計画、実践、教育活動の記録はきちんと蓄積しておかなければなりません。学校事故が起こったときなどは記録自体が学校の責任の範囲を証明するものになります。しかし、何よりも指導記録を分析し、その是々非々を明らかにすることは未然防止に役立ちます。

■ 危機管理・対応で疎かになりがちなこと～生徒のフォローとケア～

事件事故が発生したときは、どうしてもその問題に関係のある生徒や関係者に目が行きがちになります。事件事故が沈静化したり、問題の解決ができたりした場合は「一件落着！」として本来の学校運営に戻ります。しかし、その影でこちら側が全く予期しない出来事が起こったり、進んでいたりする場合があります。例えば、本件には関係ないが、その事件の内容を知った生徒がその内容を深刻に受け止めていたことにより、不登校になってしまったり人間関係づくりができなくなってしまったりする場合があります。気がつけば、3日目の欠席だったと。家庭からは腹痛や頭痛で欠席としか連絡が来ないし、家庭訪問して本人と面会してもこれといった理由がない、不登校傾向となる理由がつかめない状況です。普段から生徒の様子をつかむことが大切ですが、「見取り」だけでは不安ですね。学活ノートで生徒の心の変容を把握することや、他の教員をそのこのことについて話をすることが日ごろから求められることです。

開発的生徒指導の実際 1 ～生徒の活躍の場面を設定しやすい行事で生徒の良さを引き出す～

進路説明会

生徒主催の進路説明会では、説明を聞きたい県立学校、私立学校をそれぞれ選択できる！

1 これまでの進路説明会

進路説明会は主に3年生の生徒と保護者を対象として開かれます。これまでは日程を2日間に分けて、1日目は県立高等学校、2日目は私立高等学校とし、高等学校の先生を前に生徒全員が説明を受けるという日程で進められていました。

2 開発的生徒指導で進める進路説明会

■ 手立て

① 教室を各高等学校の説明会の会場とします。例えば、3年1組は佐賀東高等学校、3年2組は佐賀商業高等学校というようにします。各会場は生徒が担当します。司会進行の係、案内誘導の係を生徒が受け持ち、会場ごとに生徒が説明会を進めます。

② 各会場の司会進行等が本番ではスムーズに進行するように、生徒の担当者と係の先生が打ち合わせをします。

③ 1回の説明会を前半後半の2回、または3回に分けます。生徒が最低でも2回は説明を受けることができるようにするためです。そのため、高校側には2回説明していただくことになります。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

① 3年生生徒全員に対しては自分たちの力で成功させる進路説明会ということを意識させるとともに、進路説明会を通して、自分の進路を主体的に考えることができる場面を設定しました。つまり、説明を聞きたい高校を自分で選び参加するということになります。

② 司会進行などの係の生徒と当日の運営について丁寧に打ち合わせをします。そこでは、会の進行を時間内に進めること、失礼のないような態度で臨むこと、質疑応答を計画的にすることなどです。

■ 進路説明会を通した生徒の良さの高まり

司会進行の係の生徒は、適切な言葉づかいや礼の仕方、声の大きさなど事細かに気をつけながら自分のマニュアルを作っていました。案内誘導係は高校の先生を会場や控え室まで案内するときに、高校の先生の前を歩く位置に気をつけたり、会場に入るとき、会場から控え室に誘導するときの簡単な会話に心配りをしたりしながらそれぞれの仕事をしました。

特に役のない生徒も進路説明会を仲間とともに作り上げるために、質疑応答では事前異準備していた質問をしました。

開発的生徒指導の実際 2 ～生徒の活躍の場面を設定しやすい行事で生徒の良さを引き出す～

新入学説明会

良き伝統を受け継ぐ小学生が夢と希望に満ち溢れる新入学説明会は

生徒会と実行委員会がプランニングする！

1 これまでの新入学説明会

毎年、小学6年生を対象とした新入学説明会が中学校で開催されます。小学生にとって、中学校は未開の地です。中一ギャップをなくすためにも小学6年生が安心して中学校に入学するためにも、中学校入学を控えた小学6年生に中学校の様子を知らせることは大切なことと言えるでしょう。

これまでの新入学説明会は、教員主体で行われていました。校長先生の話、部活動紹介、教務主任から行事や年間計画について紹介、学習の係からの話、生徒指導の係からの話、最後に校舎案内、という流れでした。



2 開発的生徒指導で進める新入学説明会

■ 手立て

① 生徒会本部役員とともに新入学説明会実行委員会を発足させます。実行委員会では会順や内容等を話し合います。

② 新入学予定の児童に対して中学校の生徒自身が金泉中の良き伝統を語ったりこれからの金泉中に期待することを知らせたりすることが大切であるということを確認します。さらに、そのためには新入学説明会が生徒会主催で進められることが望ましいことを実行委員会でも共通理解します。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

① 司会進行は生徒が行います。

② 年間計画の説明や行事計画と今年度の行事の実績等、部活動紹介（実演）、制服の紹介（ファッションショー風に）は生徒が企画しプレゼンテーションします。

③ 事前に小学6年生と保護者には、アンケートをとり、当日、答えることができるようにしておきます。また、小学6年生と保護者から事後アンケートを取り、今後の活動に反映させます。

■ 新入学説明会を通した生徒の良さの高まり

① 新入学予定の小学生にどのような工夫を凝らせば、伝えたいことをよく伝えることができるか、また、夢や希望を膨らませるためにはどのようなプランニングをしたほうが効果的かを自分たちで考えようとしています。

② 新入学予定者は、夢や希望を膨らませます。事後アンケートには、「あんなお兄さん、お姉さんになりたい。」という感想がありました。

開発的生徒指導の実際 3 ～生徒の活躍の場面を設定しやすい行事で生徒の良さを引き出す～

始業式、終業式で生徒は振り返り・やる気発表

儀式的行事には生徒の出番がある！

生徒は「こんなことができるようになった！」「あんなことにチャレンジしたい！」を発表する

1 これまでの始業式や終業式

基本的には、校長先生のお話、生徒指導担当からの諸注意、その他先生からの連絡、校歌斉唱という流れです。生徒に出番があるとすれば、壇上で表彰を受けることでした。

2 開発的生徒指導で進める儀式的行事

■ 手立て

これまでの儀式的行事の流れに、各学年を代表して発表者を選び、壇上で発表します。始業式では今学期頑張りたいこと、チャレンジしたいことなどの抱負を原稿用紙にまとめ発表します。同じように終業式では、今学期できるようになったこと、頑張ったことなどの反省を原稿用紙にまとめ発表します。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

学期を振り返り自分の思いを明らかにすることで次学期に対する決意を新たにします。また、その思いを全校生徒の前で壇上に上がり発表することでより強い決意を生んだり、全体の前で発表するという度胸を養ったりします。

仲間のそのような決意や振り返りを聞くことで、これからの自分の生き方に反映させることができます。特に下級生は上級生の話を聞くだけでもその効果があると思われます。

■ 儀式的行事における振り返り・やる気発表を通した生徒の良さの高まり

- ① 壇上で自分の作文を発表する喜びを生徒は感じることができます。
- ② 仲間の発表を聞き自分の生き方を振り返ったり、考えたりすることができるようになります。
- ③ 次回は自分の壇上で発表してみたいと思う生徒が増えてきます。

今の自分を見つめなおして、学習面、部活動、学校生活に全力で向かっていきたいと思います。

※決意発表や振り返り発表後は、各担任の先生から承認の言葉をいただきます。
全校生徒の前で承認された生徒は、自己肯定感が高まり、自分の今後の目標に対して努力をするようになります。
まさに、出番・役割・承認が生かされる場面ですね。



開発的生徒指導の実際 4 ～生徒の活躍の場面を設定しやすい行事で生徒の良さを引き出す～

修学旅行は修学旅行実行委員会を進める！

生徒にとっては学校生活一番の楽しみ、

だからこそ、自分たちの力で成功させるための修学旅行を創る！

開発的生徒指導で進める修学旅行実行委員会

■ 手立て

① 実行委員会の立ち上げ

- 本校では5月連休明けに修学旅行が実施されたため、前年度の3学期あたりから活動ができるようにします。立ち上げる方法はさまざまですが、多くの生徒に出番を設定することを優先させるならば、新年度当初に改めて実行委員会の委員を募集しても良いでしょう。年度初めは、生徒の多くは修学旅行へ期待をしているとともに、いわゆる黄金の一週間の真っ只中でもあります。つまり、多くの生徒がさまざまな行事や学習等において意欲を燃やしている時期なのです。そこで、実行委員の選出に際しては、希望者と募るとともに教員が実行委員会の活動を通して育てたい生徒を加えても良いでしょう。

② 実行委員会の活動内容

- 実行委員長、副委員長、しおり作成担当、研修計画書作成担当などの役割分担をします。委員会の人数に応じて役を与えます。
- 修学旅行のしおりづくりを通して、学級での活動における指示や連絡ができるようにします。つまり、学級活動や総合的な学習の時間で活動する場合に、学級の実行委員が活動の支持ができるようにしなければなりません。
- しおりづくりに関しては、すべてを実行委員が作成するのではなく、実行委員会で学年全体の役割分担などを決めます。学年全体への割り振り箇所は主に修学旅行訪問地の情報（自然・環境・史跡名所・歴史など）です。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

- ① 1年生の場合は、入学早々実行委員会を立ち上げなければなりません。中学校最大の（過言かもしれませんが）黄金の一週間でもありますので、「学習場面での活躍が素晴らしいこと」というすり込みが一番効果的な時期かもしれません。そこで、小学校時代はあまり大舞台に立っていない生徒やちょっと気になる生徒などを実行委員会で活動させます。
- ② 活動時は、できるだけ生徒が活動を進めることができるような過程にします。
- ③ 修学旅行時は、出発式、解散式または各訪問地でのあいさつなどに取り組みます。

■ 修学旅行実行委員会を通した生徒の良さの高まり

- ① 実行委員会を中心に学年全体で修学旅行を成功させたという成就感や達成感を味わうことができるようになりました。
- ② 全体の前で支持や連絡、または学習の時間を取りまとめることを通して自分に自信が持てるようになりました。
- ③ 実行委員会の活動を通して、次の活動では自分のやってみようと学習場面に意欲を持つ生徒が増えました。

開発的生徒指導の実際 5 ～生徒の活躍の場面を設定しやすい**集会**で生徒の良さを引き出す～

生徒が企画運営！学年別朝会・集会

小さな出番から大きな出番まで企画できる学年活動

「できた！」「できるようになった！」「またやりたい！」という喜びを感じる場が

いっぱい設定できる

1 これまでの学年別朝会・集会

学年スタッフ（教員）が中心に、①学年主任の先生の話、②学習の担当の先生の話、③生活指導の係の先生の話、④その他連絡事項で組み立てていました。つまり、指導的な内容や学年全体での共通理解をする場でした。

2 開発的生徒指導で進める儀式的行事

■ 手立て

① 本校では、学年の学級数が2～3クラスのため、学年別朝会や集会等の実行委員会をクラス回しにします。

② 朝会・集会ごとに実行委員会を立ち上げ役割分担をします。取り扱う内容は事前に学級で話し合いをします。学級の話し合い時には、度教員が意図する方向へと誘導しなければならない場合があります。そこで、事前に実行委員を招集して共通理解させておかなければなりません。取り扱い内容は、その時々合った内容となります（開発的生徒指導春夏秋冬参照）。

③ 会で話をしていただく先生や、発表等をしてほしい生徒には、生徒間で交渉させます。もちろん、教員間でも根回しをしておきます。

[学年別朝会・集会の役割]

- ① 司会者
- ② はじめの言葉（開会）
- ③ 生徒発表がある場合は発表者の紹介係
- ④ 事前交渉の係
- ⑤ 終わりの言葉（閉会）
- ⑥ 記録の係

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

① 学年全体の前で司会ができるようになります。

② はじめと終わりの言葉では、自分の言葉として一言添えることを知り自分で考えようとします。

③ 事前交渉では、「親しき中にも礼儀あり」で、仲間間でも丁寧に対応しなければならないことに気づきます。

■ 学年別朝会・集会を通した生徒の良さの高まり

① 司会進行等の役をまたやりたいと感じた生徒が増えます。

② 生徒主催で行うことによって、朝会や集会に臨む姿勢が高まってきます。

③ 定着すれば、立派な朝会・集会として成り立ちます。立派な…とは、学年の課題を取り扱ったり、見通しを立てて会を進行させたりしながら、会をより良いものにしようという意識が芽生えます。

※ 低学年から定着させることによって、このような学習場面で活躍することがすばらしいことと考えることができるような生徒が育ちます。

登校指導の数十分の中には生徒との関わりがいっぱい！

笑顔で「おはようございます！」の後に付け加える先生の一言が生徒を変える

1 登校指導（あいさつ指導）の目的

登校指導の目的は、生徒の健康観察と遅刻指導が主な目的です。本校でも、朝の登校指導は校長はじめその他数名の教員で取り組んでいます。

登校してくる生徒の様子は様々です。いつもの朝と変わらない表情で登校してくる生徒、体の調子が思わしくない表情をしている生徒、心に悩みを抱えていそうな生徒など様々です。また、遅刻をしないように心がけながら登校してくる生徒、そうでない生徒もいます。そのような生徒に一日の始まり、一週間の始まり、または一年の始まり、学期の始まりに元気になるような声をかけるのが健康観察、遅刻指導です。

2 開発的生徒指導で進める登校指導

■ 手立て

具体的な手立てはありませんが、登校指導する教員が意図的に言葉をかけ関わりを持つことが手立てとなります。ですから、生徒の登校するときに教員はあいさつをしながら様子を見取ることが大切です。

[見取りのポイント]

- いつもの登校時間に登校している／少し遅れてきた／最近遅れ気味
- いつも一緒に登校する友人がいる／最近は一人で登校している／登校時の友人が変わった
- 「おはようございます。」の声はいつもの通り／今日はいつもの声と違うようだ
- いつもと変わらない様子だ／心なしか元気でない

体調や表情を見取るとともに、表現も見取ります。生徒は、新しいバックを購入したり、飾りをつけたりします。制服の着こなしが徐々に変わってくる生徒もいます。月曜日には髪型が変わっている生徒もいます。自転車の整備がうまくできていない生徒もいます。このように表現とは、持ち物、服装、髪型などのことです。これらの見取りは普段我々教員は行っていることですが、大切なことはこれらの見取りを生かす作業をすることです。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点

見取ったことは、生徒の良さへつながるように生かします。例えば、いつもの登校時間と違って数分遅れてくれば、笑顔で「おはようございます。」の言葉をかけながらその後に、「どうかした？」と一言かけます。何事もないければそれでよいのですが、何事もないと装っておきながら実は心配事があったり、困ったことになっていたりするかもしれません。そこを探るためにも後付けの一言は大切です。心配事や困ったことがあれば表情にも表れますので、後付けの一言を見取り生徒の様子を判断します。また、そのような声をかけられることで生徒は自分を見てくれているという気持ちにもなります。生徒も最初はわずらわしいという表情をしながら「せからし」「うざか」「きもか」と言うかもしれませんが、やがて、その関わりが心地よいものになってきます。

■ 後付けの一言を通した生徒の良さの高まり

① M子の例

つまらなさそうな表情で足取りも重く、ほぼ遅刻気味で登校していました。遅刻しそうなので急がなければならないという心の表れは感じられません。また、そこで対処的生徒指導、予防的生徒指導で遅刻指導をすると開き直ったり、その日の学校生活に影響がでたりすることが考えられます。そこで次のような段階で手立てをとりました。もちろん、M子の登校状況がよくなった

理由は、登校指導だけではなく、家庭や学校環境の変化や、本人が意志の持ちようなどさまざまな要因が相互に関係しあったことにもあります。

〔手立て〕

○はじめ

- ① 校門で言葉かけをするのではなく、少し離れたところで待っています。
- ② 姿が見えたら、あまり負担にならない程度の言葉をかけます。
「さあ、行こう。」「少し急ごう。」

○なか

- ③ 慣れてきたところで、「走ろう。」と声をかけます。
- ④ あいさつ運動をしている生徒にはM子が校門をくぐる際には「何も言わずに笑顔で『おはよう！』と声をかけてね。」と事前に話しておきます。もし、M子だけ遅刻指導をしないのかという質問があれば、『遅刻0』目指してみんなで頑張っているときに申し訳ないが、もう少しで遅刻しないように頑張ろうという気持ちができてくると思う。今はみんなの笑顔や支えが大切なときだから応援してあげよう。」と答えます。

○おわり

- ⑤ 学期の変わり目や進級の際に自分の生活目標を「遅刻をしない」と決めるよう促します。
- ⑥ 遅刻しそうな時は、自分から走ってきたり、電話連絡したりすることができるようになります。



普段の通常授業が行われているときも下校指導をします。「さよなら。」の後にここでも一声かけます。例えば「気をつけてね。」と声をかけるだけで、顔を合わせることができます。また、不審者や変質者に注意して帰宅しようという啓発も兼ねます。

登校指導と同じような視点で生徒を見ます。健康観察に加え、友人関係を見取ることによってその後の指導に生かします。

〔普段以上に下校指導したいとき〕

- ○ テスト休みを含めた定期テスト期地域の豊かさを生かした学習活動を行います。
- 先人の思いを受け継いだ地域貢献活動を行います。
- 黄金の一週間の時期（年度初め、学期はじめなど）

開発的生徒指導の実際 7 ～学習場面で生徒の良さを引き出す～

進路指導，面接の指導も生徒主体

問題解決型で取り組むこと面接指導！

1 これまでの面接指導

定期テストの午後や，短縮授業で推薦入試の面接指導が行われています。しかし，その面接指導の方法は，これまでの入試における面接を基にした情報の蓄積を生徒に与え，自分なりの回答をさせ，先生が添削し，全校一斉の面接の練習の時間に臨ませていました。

2 開発的生徒指導で進める面接指導

ここでは，全校で取り組む面接の練習の時間の取り組み方ではなく，それまでの準備について開発的に行う指導のあり方を述べます。

■ 手立て

- ① 進路関係の学習を通して収集した学校のパンフレットやちらしなどを基に自分が面接官という立場に立って面接の質問を考えさせます。
- ② 面接官の立場に立って考えた面接の質問とこれまで本校の先輩が残していった推薦入試の折の質問内容を照らし合わせます。
- ③ これまでの質問内容と同じもの，または近いものをノート等記し，自分で回答を考えます。その回答は先生の基で適当かどうか指導を受けます。また，仲間とともに質問や回答を共有します。
- ④ 時代の流れから，これまでに質問されていない内容があるかもしれませんので，先生とともに考えます。もちろん，考えられる新しい質問内容は仲間と共有するとともに自分なりの回答を館がます。
- ⑤ 時事問題がでる可能性があるので，新聞やネット等で拾い集めます。収集した時事問題を質問に変えます。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点と生徒の良さの高まり

このように，これまでの質問内容を記載したプリントを基に生徒は回答を考え，面接に臨むのではなく，これまでの進路指導を生かして，自分なりに質問を考えたり，問題を探したりすることによって，面接に対する意識が高まります。また，回答もただ暗記ではなく，自分で考え，自分で作った回答なので，自分の言葉で話すことができるようになります。

開発的生徒指導の実際 8 ～異世代交流で生徒の良さを引き出す～

クリーン活動で地域の人々と交流する

クリーン活動でボランティア精神を育むことも大切、地域の人々と交流するのも大切！

1 これまでのボランティア活動

地域に貢献したり、ボランティア精神を育んだりすることを意図した活動としてこれまで取り組んできました。

2 開発的生徒指導で進める異世代交流

本校では地域に出て地域の人とともに活動することを異世代交流と呼び、地域のさまざまな年代の人々と交流をすることによって豊かな心を育むことをねらいとしました。これもまた開発的生徒指導の一環となります。

■ 手立て

① 定期的にクリーン活動を行います。第一回目は、生徒会が企画運営をしました。



多くの生徒と地域の方々が参加！



② 2回目以降は、クリーン活動実行委員会を立ち上げ、生徒会本部役員とともに委員を募ります。ウインドブレーカーを数着そろえ連帯感を増します。

■ 生徒の良さを引き出し伸ばす視点と生徒の良さの高まり

クリーン活動を通して地域の人と触れ合います。ごみ袋を一緒に広げたり、道路の下に落ちていたごみを一緒に拾ったりするちょっとした触れ合いが、親近感を育ませます。生徒は地域を大切にする心を持ち、意図して地域の方と話をしようという気持ちになります。

VI 終わりに

■ 開発的生徒指導、実は以前から、多くの先生が自己流で取り組んでいたこと

生徒に学習させるときには、問題解決型で取り組みます。課題を設定させ、課題に内在する問題を発見させ発見した問題を解決するというプロセスで取り組ませます。同じように、学習以外の場面でもそのような手だてで生徒に取り組ませることは大切なことです。本校ではこのようなプロセスに準じた内容で取り組むことを開発的生徒指導と呼んでいます。このような取り組みは、これまで多くの先生が自己流で行っていたり、自分が所属する学年で取り組んでいたりしていました。ですから、開発的生徒指導とは、開発的生徒指導として新しく興すものではなく、これまで実践していたであろう開発的指導的な取り組みを開発的生徒指導として位置づけて学校全体で取り組むことなのです。

■ 開発的生徒指導とともに対処的生徒指導、予防的生徒指導もしっかり進める

開発的生徒指導を進めるためには、対処的生徒指導や予防的生徒指導をひとつひとつ丁寧に進めておかねばなりません。例えば、集会指導はおよそ対処的生徒指導で進めるものでしょう。問題行動が起これば対処的生徒指導であらなければなりません。学級や学年で人間関係づくりをする上で

は予防的生徒指導として前もって教えておかなければならないことが多いと思われます。

■ 生徒の良さを伸ばし引き出すためには場の設定をすること

改めて時間を割いて開発的生徒指導を実践する必要はありません。もちろん、それが学習の場面であれば計画された中で意図的に時間をかけて進めていかなければなりません。しかし、生徒の学校生活のある時間に取り組むこともできます。例えば、帰りの放送時に作文を読むや合同帰りの会を実施して、活躍の場を設定するなどです。

■ 開発的生徒指導の実践は教職員が共有することが大切

どんな取り組みが開発的なのか、そして取り組んだことを共有することが大切です。共有すれば、再度教職員から生徒にその話題をもとに褒めることもできるし、さらに開発的生徒指導として構築することもできます。

良い教師は、生徒に分かるように解説する。

優れた教師は、自らやってみせる。

そして、本当に偉大な教師というのは、

生徒の心に火をつける。